

現地日本語教師の本邦研修記録

第 6 回

1985年2月

国際協力事業団

移 国 内

JR

85 - 2

JICA LIBRARY



1019641[8]

国際協力事業団	
受入 月日 '85. 7. 23	600
登録No. 11797	234
	ESD

目 次

まえがき

研修内容

研修総括報告書<3カ月コース>	1
ブラジル ベレーン 藤野 章	1
ノーバピソーザ 大天 百々代	3
サン・ゴタルド 江上 轍生	4
レジストロ 馬場 康二	5
カンピーナス 坂野 恵美子	7
クリチーバ 大山 多恵子	9
ポルト・アレグレ 宇都 武仁	10
ブラグァイ イグアス 佐藤 邦夫	12
アルトパラナ 四方 都	14
アルゼンティン ガルアペー 勝田 信子	16
ポリヴィア サンタ・クルス 近藤 幸男	18
ドミニカ コンスタンサ 西尾 蓉子	19
ペルー リマ 具志堅 美智子	21
コロンビア カリ 筒井 菊代	23
カナダ トロント 鈴木 美知子	24
研修総括報告書<6カ月コース>	27
ブラジル ベレーン 小山 拓枝	27
サン・パウロ 物部テレザ貴代子	28
サン・ベルナンド 中原 マリア	30
アルゼンティン エル・タラル 高市 春子	35
ペルー リマ 大田 みどり	38
研修日誌	41
歌集-「わが心の日々」	137
第6回現地日本語教師本邦研修日程表	145
研修生名簿	151
研修生一覧表	154

ま え が き

国際協力事業団では、既移住者に対する教育対策の一環として主として戦後移住者及びその子弟を中心に日本語教育に対する援助（教師謝金の補助、教具教材等の整備、日本からの指導教師の派遣等）を行ってきていますが、昭和54年から新たに現地日本語教師の本邦研修を開始しました。

移住者子弟に対する日本語教育のあり方、あるいは施策上の問題点は今後共十分論議を尽す必要がありますが、優れた教師の存在が日本語教育の推進上必要欠くべからざることとは論をまちません。

しかし、日本語学校の教師の置かれた環境は必ずしも思われたものではないのが現状であります。そこでこれら教師を本邦に招き、日本語教授法その他の知識を修得せしめ、また、国内研修旅行等を通じ、日本の歴史、社会、現情等についての認識を深めさせることにより、教師としての資質の向上の一助にしたいというのが、この事業の趣旨であります。

本誌には第6回本邦研修教師3カ月コース15名、並びに今年度より新たに開始された6カ月コース5名の総括報告書と、研修日誌等が集録されております。

最後に本事業の趣旨を深くご理解下さり、研修生を温かくご指導下さった玉川大学の諸先生方をはじめ、本研修にご協力いただきました関係機関の諸先生、関係者の皆様方に感謝の意を表すものであります。

1985年2月

国際協力事業団

移住事業部長



本邦研修教師一同



「幼児教育」永井教授と共に



現地授業研究風景



「折り紙」小川講師と共に



懐石料理「築地 田村」にて



特別講義と紙工芸実習の先生を囲んで
(海外移住センター)



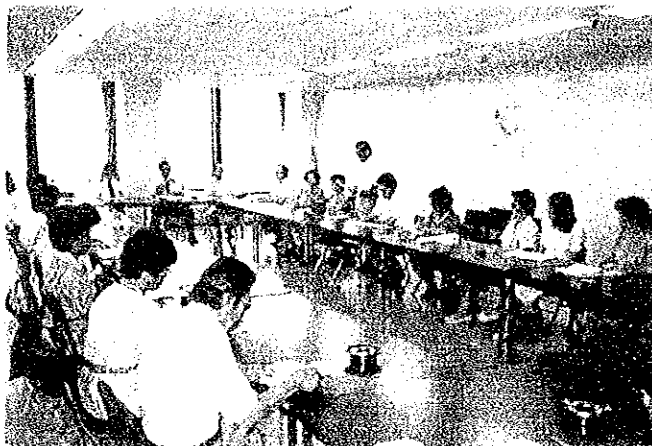
日本語教授法の先生を囲んで
(海外移住センター)



リトミック風景



海外移住センターロビーで教師一同



研修報告会(事務局)



研修旅行平安神宮



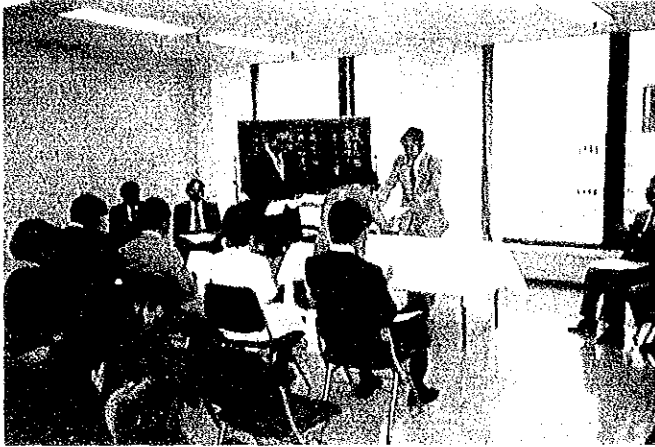
研修旅行 青函航路, 連絡船内



国際女子研修センター前にて



茶道の基礎と実習



修了証書授与(事業団)



研修修了記念
(玉川大学Aコース)



研修修了記念
(海外移住センターBコース)



送別パーティー



送別パーティー



送別パーティー会場にて



本邦研修の記念植樹
(玉川学園内：1984. 9. 5)



本邦研修の記念植樹
(玉川学園内：1984. 9. 5)

研 修 内 容

研 修 内 容

1. 研 修 機 関 玉 川 大 学
2. 研 修 期 間 Aコース 1984年6月8日～ 9月 7日
Bコース 1984年6月8日～12月14日
3. 研 修 概 要 第1期 6月8日～7月23日

講 義			見 学 研 修 ・ 行 事 等	
講 義 名	担当教授	単位数	月 日	事 項
現地授業研究	正 善	5	6. 9	事業団オリエンテーション
表現教育の研究	方	5	11	懇談会(事業団本部)
リトミック	小 野	3	12	玉大キャンパスツアー, オリエンテーション
児 童 音 楽	千 葉	2		
”	朝 日	2	13	ジャパン・インターナショナル
幼 児 教 育	永井千	4		スクール参観
児童心理学	大 井	4	14	学芸大学付属大泉小学校参観
日本語を考える	片 山	4	15	国際学友会参観
折 紙 工 作	小 川	3	19	スクーリングオリエンテーション
美 術	山 崎	1	21	小学部参観, 懇談会
”	佐 藤	4	24	歌舞伎鑑賞(国立劇場)
			26	幼稚部参観
			30	中学部合唱祭
			7. 3	落語観賞
近 代 詩	金 平	3	5	能鑑賞(国立能楽堂)
日本文化史	瀬 山	3		
習 字	石 川	6	14	鎌倉ツアー
音 楽	小宮路	1	19	神田本屋街ツアー
日本古典芸能	法 月	1		
懐 石 料 理	築 地 村	1		
体 育	白 井	1		
体 操	古 谷	1		
”	中 山	1		
”	永井三	1		
教育とは何かを 考 へ 考 える	石 橋	4		
海外日本語教育	上 原	5		

第2期 7月24日～8月16日

講義 (スクーリング自由選択)	見学研修・行事等	
	月日	事項
国語, 国語教材研究, 青年心理学, 宗教哲学, 絵画製作, 国語概論, 音楽, 音楽教材研究, 音楽一般, 児童心理学, 教育原理, 体育実技, 道德教育の研究, 音楽リズム, 体育およびレクリエーション指導, 日本教育史等の中から4科目以上	7.24	スクーリング開講式
	8.1	東京都内ハトバスツアー
	2~4	学校劇夏期大学研修 (伊豆長岡)
	16	スクーリング閉講式

第3期 8月17日～9月7日

講義			見学研修・行事等	
講義名	担当教授	単位数	月日	事項
日本語児童教育	白鳥	2	8.25 27	関西研修旅行
日本語教授法	小峯	2	28	郷里現場教育研修
文法・文型	森田	4	9.4	(郷里訪問, および郷里の小・中学校参観, 教育実習並びに教職員との懇談等)
現地授業研究	正善(達)	1		
補助教材作成	正善(多)	3		
日本の言葉	広瀬	1	5	玉川大学修了式
			7	国際協力事業団修了式(Aコース)

④<第1期～第3期まではAコース, Bコースとも同じ内容。>

Bコース 9月8日～12月14日

講義(自由選択)	見学研修・行事等	
	月日	事項
人物思想史, 幼児教育学, 国語教材研究,	9.23	成城学園の児童演劇観賞
国語II, 教育原理, 全人教育論, 国語表現法,	24	劇団ひまわりの児童劇観賞
日本史, 音楽, 経済, 言語表現,	10.10	玉川学園体育祭
日本美術史 計12コマ (小山拓枝)	13	藤沢市立天神小学校参観
道德教育の研究, 幼児教育学, 国語教材	19	日本教育研究所参観
研究, 国語II, 教育原理, 全人教育論,	20	国際学会会参観

講義（自由選択）	見学研修・行事等	
	月 日	事 項
国語表現法，日本史，音楽，思想史，言語表現，日本美術史 計12コマ （物部テレザ貴代子） 家庭教育，国語教材研究，国語Ⅱ，身体表現，全人教育，国語表現法，言語表現，児童の音楽リズム，音楽教材研究 計9コマ （中原マリア） 人物思想史，造形実技，国語Ⅱ，身体表現，全人教育論，国語表現法，日本史，音楽，言語表現，児童の音楽リズム 計10コマ （高市春子） スペイン語，音楽実習，国語Ⅱ，全人教育，国語表現法，音楽，体育，児童の音楽リズム，音楽教材研究 計9コマ （大田みどり）	22 ～25	東北，北海道研修旅行
	26	アジア留学生文化会館参観
	27	亜細亜大学参観
	11. 9	国際教育振興会日本語研修所参観
	17	玉大幼稚園参観
	24	東京外国語大学外国語学部付属日本語学校参観
	〃	横浜市汐見台中央幼稚園参観
	12. 1	玉川大学音楽祭
	3	玉川大学修了式
	4 ～13	女子特別研修会 （日本文化の特質，生け花，茶道，日本料理，アートフラワー，はり絵，日本の家庭生活等） （国際女子研修センター）
	14	国際協力事業団修了式（Bコース）

研修総括報告書

期間：1984年6月8日～9月7日（Aコース）

ブラジル国パラ州

コッケイロ日本語学校

藤野 章

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 外国語としての日本語の教授法と教材開発研究
- (2) 玉川の全人教育とはいかなるもので、どのような教育がなされているか、そして教育者はいかにあらねばならないか。
- (3) 玉川教育の身体表現、音楽教育を通しての児童の人間形成への役割の研究
- (4) 各国の先生方と意見交換をし、その実状を把握しそれを糧として、自地域の日本語教育の方向付けの探索

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

現在の北伯日語教育の現状は、親が日本人だから子供に日本語を伝えなければならないと言う意識から、外国語として日本語をとらえ、指導していかなければならないと云う様に、二世、三世というブラジル人が学び易い日本語教育に持っていかなければならない段階に来ております。そして日本語学習熱は日系子弟は申すまでもありませんが、ブラジル人の間にも意欲的に学ぼうという姿勢が出て来ております。しかしながら、現状の日本語指導の教材は旧態のままであります。

この時にあたって、玉川で教々勉強をさせて頂き、日本語の教授法、その教材作成の為の諸々の資料、そしてその根本に教育者としての心のおきどころ、ありがた等、先生方の言葉、ことばの端端から痛切に私の心奥深く伝わって来るのを覚えました。この玉川で得た事柄を精神を帰伯してから、北伯日語教育発展の上に頑張りたいと思います。

この3ヶ月間の研修内容をビデオ、或るいはカセットテープにとって頂きましたので、それ等も大いに活用したいと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 今回の研修内容は、時間制の組み方等、無理のない、それでもって誠に充実したものでありました。

只、授業（プログラム）の中に、道德教育も加えて頂いて、幼児教育、児童教育と並行した内容にして頂けたら、尚良かったと思います。

- (2) ジャパンインターナショナル等の外国人に対する現場での日本語教育の様態をせめて、3日間位は参観致したく思いました。よって見学日数の増大

- (3) 今回は男性6名、女性14名、団長を芯に実にまとまりのある団体生活でしたが、20名が最高限度の様に思えます。
- (4) 研修成果の確認の為、研修生の再度本邦研修か、その機会をお与え頂きたい。そして二世、三世を対象にした、現地日語教師人材養成の為の制度の確立を早急をお願い致します。

4. 所 感

専門的な日本語指導を受けないまま、現地日本語教師として、5年間試行錯誤をしながら、年3回程開かれる。北伯日語教育研究会、或いは事業団より現地日語教師指導講師として派遣される先生を囲んでの研修会を唯一の研鑽の場として、現在まで歩いて来ましたが、この度は事業団の温かいお計らいによって3ヶ月間玉川での研修の場をお与え頂き、常日頃疑問に思っていた事柄、又、新たに学びたい事柄等を一杯胸に抱いて研修に望みました。

この3ヶ月間の研修で得た事は、誠に計り知れない大きな物があります。

まず、教育の原点について、教育とは如何にあるべきか、そして教育者としてのあるべき姿は、どうあらねばならないか等、玉川教育の全人教育を通してその原点を教々学び取る事ができ、先生方の口から、肌から迸るそのエネルギーが痛切に私達の胸に伝わって来るのを覚えました。殊に現在の教育の荒廃振りを嘆いて、涙をお流しになりながら、御講義下った授業では、そこに真の教育者の姿を見る事ができ、教育に対しての心の在り方を見なおしさせてくれ、奮い立たせてくれるものを感じました。

それと同時に専門的な知識と実習による貴重な体験を得ることができました事は、私にとりましては誠に大きな喜びであり、今後の日語教育の上に大きな糧になると信じます。又、現地授業研究では、他校の事情や教育理念、方法を広くカナダ、中南米の各地から知る事ができ、自他共に長短所を拾捨選択し、アマゾンの地域にあった方法を摂取し、一步理想に近づいた日語教育への目標がたった様は思えます。

只今のこの混沌とした時に、こうした機会をお与え頂いた事に対し、心からお礼申し上げますと共に、今後現地での日語教育の上に、この研修で得た事柄を最大限に生かして精進したいと思っております。

第1期、2期、3期と誠に意義あるプログラムをお組み下さり、いろいろと御配慮に満ちたお世話取りをして下さいました、国際協力事業団、玉川学園の関係者の方々に、心からお礼申し上げます。

ブラジル国バイヤ州

ポスト・デ・マツタ日本語学校

大 天 百々代

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 超複式授業の効果ある指導法等
- (2) 日本の教育は、いろんな問題はあるとしても、とてもレベルが高すぎて、何を得られるのか実際には分からなかったが、同じ立場にある各国の日本語教育にたずさわっていらっしゃる先生から教えられる事、得る事がたくさんあるのではないかと期待した。
- (3) 生徒達と日本語の勉強をしていても、子供の頃移住の為日本をはなれた私にとっての日本は、本やビデオでは見ても、実際には遠い存在だったように思う。この機会に何でもふれて見て、肌で感じた事を伝えたいと思った。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

第一期、二期、三期を通して多くの先生方に多方面から教えていただいた事を基にして、ブラジルの中で日本人の血を持って生まれる子供達に、日本という祖先がある事、日本人のすばらしさを、日本語、遊び、音楽などを通して伝えたいと思う。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 何の予備知識もなく、参加させていただいたので、とても不安でしたが、あらゆる方面に配慮がされており、本当に充実した研修をさせていただきました。
- (2) 今後も、一人でも多くの方が研修出来るように続けてほしいと思います。
- (3) 暑い最中の塾生活でしたが通大生と共に、時間いっぱい勉強、生活が出来たのはとても有意義だったし、日本各地から来られた方々とお友達になり、お互いにとても良かったと思います。

4. 所 感

必要にせまられて日本語を子供達に教えていたのですが、小学5年で中退して以来、学校とは縁がなく、ただ本を読み漁っただけの私が、玉川大学の講義について行けるのかと、とても不安でした。

でも、成田空港に迎えて下さった加藤さんの御親切や、海外移住センターに着くと、江崎さんが家族を迎えるようなお心使いに、第一の不安は取りのぞかれました。

玉川学園での研修も、諸先生方が心からどうしたら良かった何回かの講義でこの研修生達に効果があるように教えられるかと、一生けん命御配慮して下さい、本当に心を打たれました。

教育とは、一生かけてするもの、命を懸けてするものだと言われました。

(進みつつある教師だけ、人に教える権利あり)

私にとっては、とても恐い言葉ですが、忘れないで私なりに地域にあった教え方を見つけて行きたいと思っております。

出身地研修では、出身校に行ったが、校舎は新築されていて、昔の面影は何もなく、ただ、上役小学校の名だけが昔のままだった。

でも校長先生と長時間お話し出来、昔、今の学校の移り変わり、学生達の変わった様子などを話していただいた。

この三ヶ月間の貴重な体験は、これからの私の人生にいろんな面で大きな影響を及ぼす事と思います。本邦研修生としての道を開いて下さいました方々、受け入れて下さいました方々に心から厚くお礼申し上げます。

ブラジル国ミナス・ジェライス州

サンゴタルド日本語学校

江上 穰 生

1. 当初、研修に期待したこと

当初二つのことを期待してきました。

第一に、外国語としての日本語の教授法です。

外国語としての日本語と日本国語としての日本語の問題は、ブラジルでの日本語教育には大きな問題となってきました。

第二、複式授業の教授法についてです。

一斉授業の不可能な現状から如何によりよい成果を得るかは、常についてまわった課題でした。

2. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

この夏の研修の成果というものは現場に帰って、ゆっくり時間をかけて生かしていくことになるでしょう。それは1、2年後から徐々に表われてくるかもしれません。日本語を「児童のための日本語として」確実に効果のある教え方をしていく所存ですし、実技と教材作成に手を惜しまず、積極的に進めて行きたいと思っています。

自校のみにとどまらず、他の地域のためにもこの研修の所産を分かち与えたりして、よりよい日本語教育活動に励みたいと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

。 玉川大学の小原学長の「このへんでもう一度、今までの研修生を招いて再研修の機会を与えては……」との言葉を是非実現させて頂きたく切望します。

。 各々の国に帰っても、三年に一度でいいから、この研修生の集まりをどこかで再実現出来るようにとり計って頂きたくお願いします。

私どもにはこの機会をして横のつながりが如何に大切かよく分かりました。又、現場をときどき離れてみることも如何に肝要かも分かりました。甘えてなく必要として要望致します。

4. 所 感

期待と不安とで来日した今回の本邦研修でした。

一期の雨のシーズン、第二期の猛暑の中のスクーリング、研修は予想より厳しいものでした。時間に追われつつ、一時のゆとりもない程でした。ひたすら勉強に没頭しただという感が致します。第三期にやっと日本を研修することが出来ました。これもが学習につぐ学習の連続で、なにかを得ようとする姿勢はつきまといました。そして、ついに閉校式を迎えてしまったのです。

しかし、今ここにきて、喜びとしていえることは、期待以上の成果を得て帰国出来るということです。早く、待っている子らの元へ帰って行きたい気持ちで心は舞っています。

数え切れない成果の中に、よりよい日本語教育をしようという熱意、よりよい教師たちとする努力があげられると思います。帰国して任地で、教育の場で表われてくることを信じます。こうした機会をお与え頂いた国際協力事業団にたいし、ただただ感謝の念でいっぱいです。ありがとうございました。

当初の研修に期待したこと、それらの全ての解決を得て帰国出来る喜び、どうもありがとうございました。本邦研修生に選ばれた幸せをもう一度思い返し、素晴らしい研修の所感と致します。

ブラジル国サンパウロ州

レジストロ日本語校

馬 場 康 二

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 国語教育の外国語としての指導法
- (2) 図工授業の指導法
- (3) 複式授業の教授法
- (4) 音楽・体育レクレーション・遊びの指導法
- (5) 小学校低学年の授業参観
- (6) 教師の姿勢

- (7) 全人教育の理解
- (8) 日本の現状について
- (9) 研修生の和
- (10) 教材作製

2. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

今迄研修した中ですぐ役立つもの、そうでないものがあり、特に情操関係、図工教育、絵画教育等は有意義だった。又、全人教育の理念を少しでも理解できた事は、日本語教育だけではなく、家庭教育、人格形成等の全ての教育に通じると思う。従ってこれからの日語教育の理念に大いに役立つと思う。

通大生、学校劇夏期大学生とふれあい、色々な話し合いで学んだ事も、我々にはいい収穫だった。玉川学園で学んだ事は教師は常に“研究心を持つ事”これはこれから続ける教師生活に欠かせない条件の一つと思う。

この研修で学んだ事は、帰国したら少しでも多くの人に伝えたい。又、これからの日語教育の繁栄、増進向上に努力したいと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 本邦研修制度の継続と増員(特にサンパウロ地区)
- (2) 夏期スクーリングの入塾継続
- (3) センターの食事時間の増加
- (4) 入浴不足の解消
- (5) 研修生の予備知識不足の解消
- (6) センターでの日本語教授法、児童教育文法、教材作製、全授業の増加

4. 所 感

20余年振りに日本に着いた時、あまりの変り方に言葉がなかった。家屋、道路、自動車の姿貌、そして望郷の念、空港での妹との対面、この嬉しさ、懐かしさは涙がにじむ様な気持ちでいっぱいでした。この感激を与えて下さった国際協力事業団に感謝に絶えない気持ちでした。

全世界で5,200を超すと言われる日語教育機関の中で、我々20名だけがこの現地日本語教師本邦研修制度に参加出来る事を大変ありがたく思っています。そして久し振りに見せて頂ける日本は、我々外地に存在するものにとって最高の喜びです。又、外地在住者の特権でJAPAN RAIL PASSを使い、青森・中部地方・九州迄旅行出来、見聞を広める事も出来ました。旅行好きの私にとって、なによりでした。

この3ヶ月間の研修で、色々な事を習い覚え、色々な人々との出会い、ふれ合い、おそらく一生忘れないでしょう。特に夏期スクーリングは、時を忘れて何時迄も語りあえた事は、印象深く残っています。おかげで3校の小学校と交通、作品交換等約束出来た事は予想外の研修でした。研修生同志の和が最後まで保てた事がなによりうれしかった。又、休日を利用して我々の町（レジストロ市）と中津川市の姉妹都市に於ける、両市長の親書交換出来た事もこの研修ならではの事です。

玉川大学で学んだ全人教育、児童心理、リトミック、情操教育、図工教育等大変ためになりました。特に教師の姿勢に心うたれました。帰国したら、私もこの姿勢で新たに努力していくつもりです。

我々のために御指導賜りました、JICAの皆様、玉川学園の先生、国際教室の皆様、センターの職員、センターで講義して下さいました先生、本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。

ブラジル国サンパウロ州
カンピーナス日語学校
坂野 恵美子

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 超複式授業の効果的、価値的な教授法
- (2) 日本の僻地の複式授業校の参観
- (3) 外国人に日本語を教える機関の参観（外国語としての日本語の教授法）
- (4) 自分自身に於ける全ての面の成長、修得
- (5) 教材、教具の作成と研究
- (6) 各国日本語教師との交流、意見交換

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

この度の素晴らしい研修を終了した今、試行錯誤していた私の日本語教授法について、ある程度の自信と限りなきファイトが湧いて参りました。これは私にとって本当に嬉しい収穫でした。

何と多くの事を学んだことでしょう。私にとって「金の研修」となりました。潜在していた向学心を大いに刺激され、もっと深く勉強したい、吸収して行きたいという気持ちでいっぱいです。

言語教育のみに終わらないBrasilをしっかりとみつめたこの国の子供達に適した日語教育、そして教育の原点を常にみつめた教育をして行きたい。子供は小さな大人ではなく一人の完全な人間であるという認識の上に立って。

自分自身の成長と共に日本文化の伝承者としての教師として成長し続けて行きたいと願っています。

す。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

(1) 本邦研修制度の全面的増員。

特に日語校352校、600人の日語教師をかかえるBrasilの研修生の増員を熱望します。

他の国の場合、既に2度目という循環度の良さに羨望あるのみでした。

閉講式に於ける玉川大学学長先生の御言葉“もうそろそろ2回目の研修生を受け入れられるようにしたい”—この御言葉に希望を託します。

(2) 出身地研修の折、立派な図書館(小平市)を見学致しました。そこには廃棄処分を待っている本の多さに驚きました。全国的な事業団キャンペーンによる、現地にそれらの本を送る運動を抜本的に実現して頂けたらと思いました。

(3) 入塾の移動の際の荷物運搬にいて、マイクロバスを出して欲しかった。猛暑の中、肩に食い込むあの荷物の重さを忘れることは出来ない。よろしくお願ひ致します。

(4) センターに於けるⅢ期の授業コマ数の増加。

4. 所 感

私は1984年8月を持って請われて日語教師となって満10年が経過した(その間、出産、ニューヨーク在1年という空白あり)。この10年間全くの井の中の蛙で、毎日が試行錯誤の連続でした。何か大きな間違いがあるのではという不安は常に持ち続けておりました。そんな時、玉川の超理想的教育の牙城にボンと置かれ、何と素晴らしい師との出会いに心ふるえ、毎日を過しました事でしょう。そして自分自身今までやって来た事に対する肯定と同時に未熟さを恥じ、もたげてくる向学心を押さえるのに困りました。日本に於ける持ち時間もわずかとなった今、もっと継続して学びたいという思いに焦られております。

教育とは愛し育てることであり、生徒の人間形成に如何に関わっていくかという事も学んだ。自分自身の反省と胸ふるえる思いで受けた講義だった。

教師としての資格を持たぬまま10年という歳月を重ね、何かを求めて暗中模索していた今年、この様な機会を与えて頂いたこと自体幸運の一語に尽きる。

あの教育界の輝ける星、ベスタロケもプレーベルも偶然の機会によって教育者になったという。

“進み行く教師こそ教える資格あり”の言を座右銘としてひるむことなく自信を持って前進あるのみ、私の持てる物全てを出し切ってぶつかって行きたい。

夏期 schooling に於て朝8:40 ~ 6:40まで「ゼミ」まで取って頑張ったせみ時雨と汗と涙と喜びのことを決して忘れない。

私の国 Brasil をしっかりと見つけ、Brasil の伝統と文化の中で良き日系人輩出の為にこの素晴

らしかった研修の成果を投入して行きたいと願っています。

国際協力事業団及び玉川大学国際室、並びに諸先生に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

ブラジル国パラナ州

クリチーバ日伯文化援護協会日語講座

大 山 多 恵 子

1. 当初、研修に期待したこと

すべて初心にかえって学びたいと思っていましたから、何でも吸収し与えられたものを喜んで受けたいと願っていました。

特に国語（日本語）の基礎をしっかりと学びそして外国人への日本語教授法など多く知りたいと願って居りました。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

サンパウロのアリアンサ（日伯文化連盟）には日本語普及部の中に、日本語研究会があり、教師達は定期的に集まり教材作製、講演会、シンポジウム、講習会等に参加し研鑽を重ねて居りますので、機会が与えられました時、研修報告や発表、実習等して多くの仲間に伝えたいと思います。

日本語の指導を行いながら、後継者の発掘とその養成にも力を注ぎたいと念じて居ります。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 一人でも多くの教師がこの恩典に浴すことができます様、可能な限り枠を広げて頂きたい。
- (2) 玉川大学への入塾については再検討願いたい。
- (3) 三期の日本語教育（教授法）等につきもっと時間を増して頂きたい。
- (4) 見学に就いて、僻地教育（複式学級）、新しい学園都市として注目されている筑波学園等、個人では行きにくい施設等訪れたかった。
- (5) 高齢の教師のために短期間でも別の方法を講じられたい。
- (6) 二・三世の後継者養成は今後共是非続け、充実を計られる事を願いたい。
- (7) 学校授業参観が出来る様郷里研修を9月にお願したい。
- (8) 団員が揃って週に1度は反省会とお互いの意見交換の場を作りたかった。

4. 所 感

長いと思って居りました3カ月も夢の如く去ってしまいました。そして暑さにあえぎながら通っ

た玉川の丘も今は思い出のなかにあります。

出発前、サンパウロでは既に研修を受けたOBとの懇談会があり、種々助言を受けていましたので、研修についての多少の予備知識を持っていましたが、研修科目等についてはプログラムもなく皆目見当がつかないまま、どんな授業が受けられるものかと期待に胸をふくらませて日本へやって参りました。

一期、二期、三期を通じそれぞれ異った観点からの授業は充実したもので、いずれも私にとりましては良い勉強になりました。

今夏の猛暑は例年にないと言ひことであり、スクーリング中の暑さは格別でしたので、最初の週は塾での生活に馴れない事や、夜熟睡できない事等で、授業中睡魔に襲われる時も度々ありとても困りました。丁度通学にもセンターの生活にも馴れた頃塾に移り、又異った環境に適応するまで時間がかかりました。

日に日に移りゆく進展の速度がばやい日本の姿を目の辺りにして、時間を有効に使ひ常に学ばねばならない事を痛感致しました。どこの国にもある長所、短所を通してもう一度日本を見直し、その言語についても種々学ぶ事が出来ました。他方、玉川大学での講義は内容もさる事ながら、講師として授業に当って下さいました諸先生方を通して「全人教育」の何たるか、そして創始者小原国芳先生の説かれる「教師道」の実践等しっかり学び得ました。研修での大きな収穫を一人でも多くの先生方にお伝えし、自身の授業にも最大限生かしていきたいと願っております。

夢でしかなかった本邦研修に幸運にも選ばれ、良い環境(快適なセンター)と教育の殿堂の中で素晴らしい研修の日々を過ごさせて頂きました事を、深く感謝申し上げます。

ブラジル国リオ・グランデ・ド・スール州

ポルト・アレグレ日本語教室

宇野武仁

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 限られた時間内に日本語をいかに能率的かつ効果的に習得させるか。
- (2) 複式授業をどう展開させるか。
- (3) 会話を身につけさせる方法
- (4) 子供達の日本語に対する関心をいかに引きつけさせるか。
- (5) 漢字をどのように教えるか。
- (6) 私共の所ではどのような教材をいかに使用すべきか。
- (7) 児童心理について
- (8) 道徳教育はいかにあるべきか。

(9) 自分自身教師としての態度はいかにあらねばならぬか。

2. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

いかに今迄の研修成果を今後の日語教育に生かすかによって、この研修が評価されると思います。熾伯次第この成果を生かし、或はこれにヒントを得ることによって、より能率的、効果的な授業をするよう努力すべき事は勿論、私共の地区20数名の先生方にもこの要点をお伝えする義務があると思います。あらゆる教材(手作りなどを含めて)、方法を取り入れて日本語教育、或は情操教育に役立て、生徒達が日本語に対してより興味を持つよう努力しなければならぬと思っております。今日枚の暗中模索型からより系統立った教育法を確立しなければならぬと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

研修を同志で討論しあう時間も1週に1時間ぐらいあっても良いのでは。議題は、例えばその週の授業内容等について意見を交換しあう、とか或いは特殊なものでもいいと思います。

4. 所 感

あっと言う間に3ヶ月過ぎてしまいました。今日迄を振り返ってみて、本当に捻りある豊かなすばらしいものでした。と申しますのは、具体的にこれから日本語を教える場合、その中と層がとっても広く、深くなり、今日迄の研修が全て応用できたり、或はヒントとなって役立つからです。例えば児童心理学的にはどう対処すべきか、又、日本語教育に於てより短期的に効果の上るように音楽、美術、折紙などを利用するとか、カードを利用するとか上げたらきりがありません。

私が教師生活3年の間に自分が一生懸命なればなる程、生徒の方は冷めてゆくような現状で、最近では自信さえなくしつつありました。それがこの研修でその糸口がつかめたような気が致します。

それともう一つの大きな収穫は、私なりに日本人の文化風俗、習慣などの規範となっている歴史的宗教観が理解できた事でした。これは教育者として大変重要な事だと思います。良く日本人は無神(信)論者だという人がいますが、これはとんでもない話だと思います。これが道德教育の原点だと言ったら言い過ぎでしょうか。天皇制にしても然りです。

郷里研修では僕等が通った小、中学校は残念ながら廃校になっていました。校舎(小学校)はそのままでしたが、ペンキの剥けた壁や窓は本当に淋しいものでした。見なければ良かったと思った程でした。但し、郷里の美しい山河はそのまま山など一段と美しくなっていたようにさえ思いました。それと26年前と変らぬ皆様方の温かいお心とおもてなし、これには感動させられました。

最後に、この様な貴重な研修体験の機会を与えて下さいましたJ A I C Aの皆様、又それを親身になって御指導、お世話下さった玉川学園や諸先生方、又センターの職員の方々にも深くお礼申し上げます。

パラグアイ国アルトパラナ県
イグアス日本語学校

佐藤 邦夫

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 玉川学園の創始者・小原国芳先生の思想・人格に触れること。
- (2) 寮(塾)の運営の在り方(主に学生の日課)について調べる。
- (3) 教育設備・環境造りなどについて学ぶ。
- (4) 剣道・少林寺拳法・書道・ピアノ・短歌等の実技訓練を受けること。
- (5) 学校制について、基本的なことを学ぶ。
- (6) 作文指導の在り方を学ぶ。
- (7) 毎朝のラジオ体操の時間を、もっと活気にあふれたものにしたいのだが、なかなかうまく行かない。その点のヒントを得たかった。

(前記1の項目順に述べます)

- (1) 小原先生の御著書、レコード、ビデオ等を入手した後か、教育論の骨子や先生のお人柄などについて、石橋先生、米山先生の教育原理の御講義の中でお話があった。また、映画・VTR等による「玉川教育」も参考になったし、学園内の数々の石碑からも、小原先生のお人柄がしのばれた。

玉川の丘にあれだけの学園を築き上げられた力量にも感心したが、そこに集まれた先生方の人格の高さに、小原先生のスケールというものを十分に見せて頂いた気がする。

- (2) 我が校に於いても、通学の問題と教育の徹底という2点から、寮の建設が検討される時期になった。通大生と共に3週間の塾生活を送ったおかげで、塾生の日課や塾運営の方法などは良くわかった。また、PL学園中学部からも資料を取り寄せ、寮運営の実態を調べさせてもらった。共通して言えることは、学生・生徒が相当厳しく時間に束縛されていることである。わがまま育ちの私などにはちょっと耐えられそうにもないが、反面、「中学生の年代は鍛えられることを欲する時期であり、師弟間の信頼関係が成り立っていれば、24時間束縛しても彼らはついて来る」という私自身の体験的実感を肯定できると思った(私は、1人の中学生男子を下宿させ、3ヶ月間共同生活をしてみたことがあります)。
- (3) どの教室にもピアノが置いてあることに本当に驚いた。また、建物の中に至る所に名画が掛けられているにも感心した。「おカネがあるから……」と言ってしまえば簡単なことだが、よほどしっかりした理想や信念が無かったら出来ないことだと思った。
- (4) 我が校では、中学生男女全員に剣道を必修として居り、また、少林寺拳法も希望者に課外活動的に教えているので、剣道と拳法は、この機会に1回でも多く修行しておきたかった。また、書

道なども、自身の教養と今後の教育の充実の為に是非とも修めておきたかった。

こうした実技部門では、いずれに於いても「師から遠ざかることのこわさ」を実感せざるを得なかった。また、基本に対する忠実さ、人格陶冶の為に〇〇道という、玉川学園に一貫する教育理念を身を以て学ぶことができた。慢心をくじき乍らも指導者としての勇氣は与えるという、すばらしい先生方であった。

- (5) 伊豆長岡での「学校劇夏期大学」に参加させて頂き、貴重な勉強をした。当初は、机上学問的に、照明やセリフの言い方など、劇のイロハの解説もあるものと思っていたが、すべて即興による創作活動で押し通され、かなり面くらった。学芸会の際にだけ無理矢理に「やらせ」の芝居をさせてもダメで、日常からの創作訓練が大切だということだろう。

もちろん、玉川に於けるリトミックも大いに参考になった。ともすれば、分別くさい説教調の授業になりがちな自分にとって、反省する点も多かった。

- (6) 作文指導については、特別な講義はなかったが、上原先生や片山先生のお話が大変参考になった。まだ具体策は良くわからないが、感性と結びついた国語授業の在り方を開発しなければならぬと思った。

- (7) リトミック、歌あそび、塾生の食前体操などからたくさんのヒントを得た。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- 教育は、まず教師自身の自己変革から始まると思う。これは初めて教師になった時、生徒達との交流の中から否応なしに学ばされたことである。しかし、歳月が流れ、学校運営にも一応の自信がついて来ると、向上心は失わない乍らも、変革の方向を見失っていたようであった。今回の研修のおかげで、教師としての今後の努力目標がいくつか明らかになったように思う（例：低学年指導に対する関心を強めた。身体表現力をもっと身に付けるべきこと。…）。特に、リトミックに代表される身体表現は、私の最も苦手とするところで、この難関を突破してみようと思う。
- 一貫した教育にカリキュラムは不可欠であるが、カリキュラムが確立すると、カリキュラムが教師の上に君臨し、教師の自主性が失われて教室・学校の活力まで損うおそれもある。組織・制度のすべてについて、我々（人類）は同様の難問を抱えているようだ。

幸い、我が校は協力的な父兄、熱心な教師陣、やる気満々の生徒達と恵れた条件下に在るから、多くの研究会を企画し、この問題に果敢に取り組んでみたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

今後もこういう機会を設けて頂きたいと思います。

4. 所 感

。 国際人として、日本人として

今回、身に余る待遇を受けて帰国し、研修させて頂いたことにより、移住の道を選択した自分に課せられている使命がよくわかった気がします。

我々日本人移住者が、日本人であることを捨て去って国際人になろうとしても、それは不可能なことは、現代に於いてはもはや論をまつまでもないことだと思います。しかし、では何が日本的であるかとか、国際人とは何かとかいうことは、ただ単に言葉の上で語り尽すことのできる問題ではないようです。その中には、論理よりも情念に深く結び付いている部分が大きなウエイトを占めているように思います。

もし、私共のこのたびの研修が、「とにかく、移住者の生活を守ってやらねばならぬ」という、本国側の親心のみから企画されたものだとしたら、我々はずっと違った気持ちになっていたと思います。その親心の面は大きいでしょうが、反面、「海外の日本人がそれぞれの地域で頑張っ
て下されば、日本の為にもなります」という期待も感ずることが出来ました。そこに、一方的ではない人と人との心の絆が確かに感じられ、我々の日本人としての誇りと国際人としての自覚がより鮮明になったのだと思います。

また、同じ移住者同士といえども、地域が違い、国が異なれば、通常では全くお互いを知る機会などありません。たとえ短期の交流を行っても、むしろ相違点のみ目立って、相互に理解し合うという程にはなかなか至らないとも言えそうな気がします。その点、今回のように、3ヶ月もの間行動を共にすると、それぞれが持ち寄った雑多な相違点もいつしか解消して、「同胞」という意識を抱くことができるようになりました。

更にまた、ただ何となく3ヶ月間行動を共にしたのでは、やはり、今の我々の意識は育たなかったらうと思います。玉川に於ける、内容の濃い授業、豊かな人格の先生方に感謝するゆえんです。

ブラグァイ国イタブア県

富美村小学校

四 方 都

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 現在の日本を知ること。
- (2) 日本語のより良い指導法

漢字、作文などの指導の短い時間での効果的方法

- (3) 音楽、リズム体操などを多く学ぶこと。

(4) 楽しい授業をするための教授法。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- (1) 玉川での内容豊かな研修をパラグエイの児童に楽しい授業の中で伝えてゆきたい。
- (2) 移住の歴史が古い国の実情を知り、学ぶ点がとても多かった。それを参考に今後の日本語教育を考え、対処してゆきたい。
- (3) 後継者ということで、二世教師の養成に努力したい。
- (4) 研修生のOBとの連絡をとり、力を合わせて、日語校の将来を考えてゆきたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) とても盛り多い研修だと思ふ。ぜひ続けて多くの先生方に、研修を受けていただきたいと思ふ。
- (2) 後継者の養成ということで、二世の先生方の長期研修をお願いしたい。
- (3) 日本に研修に来て、他国の日本語教育の実情をいくらか知った今、それで終りということではなく、ひきつづき他の国の実情を知るため、授業の参観見学、研究会等の機会を持たせていただきたいと思ふ。

4. 所 感

これほど研修が充実したものであり、内容豊かなものとは思いませんでした。先輩の先生方がとても良かったとおっしゃっても、自分が体験して初めて、そのことに納得がゆき分かるのだと思いました。

研修に招いて下さった国際協力事業団、研修を受け入れて下さった玉川大学、本当にありがとうございました。

この盛り多かった研修をパラグエイで、いかに子供たちに伝えるかということが、これからの私に課せられた務めです。週1回の日本語の授業をいかに楽しく、充実したものにするか、玉川大学で学んだことを生かしてゆきたいと思ふ。

玉川大学の緑あふれるキャンパス、汗が飛びちるような体育館で、せみしぐれの教室で、この3カ月すっかり学生にかえって、勉強だけ集中できたのは、とても貴重な体験でした。農家の主婦であり、母親であり、教師であった今までの生活から離れて、新たに教師とはという視点で見つめなおすことが出来ました。玉川大学の素晴らしい先生方、センターに来て下さった先生方、その講義ばかりでなく、人間として、教師としての考え方、生き方により多く考えさせられ、教えられることがありました。

又、他の国からの研修の先生方と出会い、一緒に研修し生活できたことは、これからパラグエイの日本語教育を考えるうえで非常に役立つものだと思ふています。

このような機会を与えて下さった皆様方に、心からお礼を申し上げます。そして新しく与えられた力を、バラグアイの子供たちだけでなくだけ伝えること、この研修をより多くの方々が受けられることを願って、所感といたします。

アルゼンティン国ミシオネス州

ガルアペー日本語学校

アルトバラナ日本語学校

脇田信子

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 教師としての視野を広め、日本の現状を知る。
- (2) 日本語に興味を持たせ楽しく学ばせる方法。
- (3) 多くの教材、教具を知りその作り方を知りたい。

2. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

- (1) 玉川学園で教えて頂いた全人教育をとり入れ、いのちを育て、いのちを輝かせる教育、ひとりひとりを生かす授業をしていきたい。
- (2) ちょっとした工夫ですばらしい手作り教材ができることを知りました。そういう教材を多く作り、教室で利用し、児童にも創り出す喜びをつたえたい。
- (3) リトミック、音楽リズム、手遊びを多くとり入れ、楽しく明るい雰囲気クラスを作りたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) この研修制度は続けていただきたいと思います(特に、2・3世の方の教師の養成を望みます)。
- (2) 夏期スクーリングの科目の選択は教えてくださる先生とその授業内容をよく知ってから選択する必要があると思います。
- (3) センター内での講義をもう少し多くしてほしいと思います。大変実用的な講義ですので、すぐにアルゼンティンでも役立つと思います。
- (4) 一度研修に来ましても再度研修できる機会を与えてほしいと思います。また、何年かに1度この研修生がどこかに集まり、その後の研修の活し方、成果を話し合える機仕を与えてほしい。

4. 所 感

この3ヶ月間夢中で過しました。勉強だけに専念できましたことは大変有難いことだったと感謝しております。

人間味あふれる玉川大学の先生方の熱心を講義を受けることができました。アルゼンティンですぐに役立つという講義よりも、どの先生方の言葉の端々にも真の教師とは……。誠の教育とは……。本当に子供達のために子供達のための教育をしてほしいという願いがこめられていて、教師自身の向上を期待されているように思われました。教育とは愛し育てることだといわれた言葉が強く印象に残っております。

特に、石橋先生の「教育について考える」は大変感銘深い講義でした。自分自身を見直し、心を新たにさせるすばらしい講義だったと思います。

上原先生の「海外日本語教育」の講義も印象深いものでした。死を直面され、それを乗り越えられた先生ならではの講義だったと思います。

音楽ではリズム遊びが教室ですぐに役立つと思います。小宮路先生の教師はムード作りであるという言葉を胸にきざみたいと思います。音学ではない、音楽だといわれた朝日先生の言葉も心に残したいと思います。

リトミックも教室に取り入れたいと思います。子供の心の開放、音楽を聞きながら、自由に体を動かしたり、即興のお話を作るとも楽しいことでした。

幼児教育も美術も習字もその他のどの教科の先生も学校で教える技術を教えるのではなく、教師自身を人間を育てる講義であったと思います。

第Ⅱ期のスクーリングでは国語力をつけたいため、国語教材研究、国語(専)を選択しました。大熊先生が「一般の人々は書かなくても、教師はプロとして知っておかなければならないのだよ」といって1時限に2回標準字体の試験をされたのが懐しく、これはきっと教室で役に立つことと思います。

塾生活が体験でき、日本の若い方々と語り合え、キャンプ実習ではすばらしい仲間を得ることができました。起床、聖山礼拝、当番等、自分の時間がとれず、ただただ忙しい日々でした。苦しいこともありましたが、それ以上に得るものがあったと思います。暑い中一生懸命講義していただきました先生方、お世話くださいました国際教室の皆様、通大の事務所の方々ありがとうございました。深謝申し上げます。

第Ⅲ期はセンター内での講義でした。外の天候など一切無頓着にクーラーのきいたお部屋での講義で快適でした。

森田先生、白鳥先生、小峰先生どの講義もアルゼンティンですぐに役立つ実用的な講義でした。誠にありがとうございました。

姉様人形、ソープバスケット、バラ作りも楽しい実習でした。早速アルゼンティンの婦人の方々に伝え広めて行きたいと思いました。すばらしいスケジュールを組んでくださり、本当に充実した3ヶ月であったと思います。こういう機会を与えてくださいました国際協力事業団、お世話くださいましたBuenos Aires支部の方々、海外移住センターの皆様、誠にありがとうございました。最

後に拙い歌を添えまして所感とさせていただきます。

胸が打つ 講義を聞きながら いかにか伝へむこの昂りを

ボリヴェア国サンタ・クルス市

サンタ・クルス日本語学校

近藤 幸 男

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 総ての面で日本語の教授法を習得したい。
- (2) 日本の文化、伝統等より多くのものを吸収したい。
- (3) 複式授業のより良い方法の様なものを得たい。
- (4) 教師としての姿勢は如何にあるべきかについて。
- (5) 外国語としての日本語を子供達に身につけさせるには如何にすべきかについて何かを得たい。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

今迄本当に手さぐりのもので子供達に接していた事を大いに反省し、此の度、研修を通して自分なりに習得したものを何とか現地で活用、応用して行き度い所存。

- (1) 視聴覚よりの日本語をうまく子供達に身につけさせる。
- (2) 音楽を通して楽しみながら言語をおぼえさせる。
- (3) 音楽を聞きながらの身体表現による習得法。
- (4) 美術、折紙等を通して何かを作る楽しみの中で言語を習得させる。
- (5) 歌う楽しさを感じながら言語を習得させる。

子供達と一緒に楽しみながら少しづつおぼえさせていき度い。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 本邦研修生、制度を継続させていただきたい。
- (2) 上記参加人員を小さい国でも2名一緒にしていただければ、何かと効果が上がる様に思う。
- (3) 研修に先だち予備知識が得られればと思う。
- (4) 今回移住センターで受けた講義の時間が短かった感があるので、もう少しでも増してほしいと思う。
- (5) 夏期スクーリングのために入塾したのは結果的に良かったと思うので、継続していただき度い。

4. 所 感

家族全員で希望を抱いてボリヴィア共和国に移住してより26年を過ぎ、何だか確実性の様なものを失いかけていた矢先、柄にもなく現地で日本語学校のお手伝いのような仕事をしていたお蔭で、今回第6回本邦研修生の中に年齢制限を過ぎているにもかかわらず えていただき、不安の連続ながら、周囲の皆様方の優しいお心遣いの中で何とか大過なく研修の全日程を終らせていただく事が出来、事業団本部、玉川大学の諸先生、移住センターの職員の方々に衷心より感謝の念で一杯です。本当に有難うございました。

緑の丘、玉川でのスクーリングを含めての諸先生方の親切丁寧な講義を始め、学園内の参観、外部の特殊な授業をしている学校参観、神社、仏閣等の見学研修、移住センターでの特別講義、関西旅行、出身地訪問と勉強になる事ばかりで年齢を感じている暇もない3ヶ月でした。

この日本での3ヶ月間に自分なりに習得したものをボリヴィアに帰って子供達に何とか伝えたいと念じております。

事業団本部の方々、玉川の諸先生、移住センターの皆さんに心よりお礼を申し上げると共に御多幸と御健康をお祈り致します。有難うございました。

ドミニカ共和国ラ・ベータ州

ドミニカ日本語学校コンスタンサ分校

西尾 蓉子

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 先輩より聞いていた全人教育について学びたい。
- (2) 二世、混血、子弟対象の日常生活に日本語を使用していない者に対する指導法。
- (3) 複式授業のより効果的な方法。
- (4) 音楽全般について学びたい。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

何の知識もなく日語教師となって7年余、本当に辛い思いをして自信の無い授業をして来ました。というのは年々混血児が増えていき、本来のやり方ではとても難しくなって来たからです。この度幸運にも本邦研修で訪日する事ができ、3ヶ月間も研修する事ができ、深く感謝致しております。

長い様で短かった3ヶ月、実に意義深い研修だったと思います。この度の研修で深く感じた事で、いかに環境、教師の心構えが大切であるか、それによって子供等も変る事ができる等々、深く感銘致しました。そしていかに現地に即した授業をするか、子供等が楽しく進んで学べる状態にするか。身近かな文化背景、生活習慣に合った教材をつくり出す必要がある。それには視聴覚教育が最も適当であることが分かりました。そして常に子供の心に近寄り、子供を知る事も大切であります。

そのためにはバカになり切り、遊びの中にも入らなくてはなりません。

今回の研修によりぐらついていた日語教育に対する心構えも一変し、一日も子供達に会える日を楽しみにしています。今迄、効果が無いと嘆いていた事も、原因は全部自分に有った事に気が付き尚更です。

「進みつつある教師のみ、教える資格あり」の言葉を大事にしていきたいと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 二世教師養成のためには、6ヶ月でも少いと思います。そのためにできるだけ長く研修できる事を望みます。
- (2) 学校参観がとてためになったので、もう少しの余裕が欲しかった。
- (3) できればセンターに於いての授業を増やして戴きたい。
- (4) 関西旅行はとてた疲れるので、範囲を狭くするかどうかしていただきたい。
- (5) この本邦研修制度はいつまでも続けて、一人残らず参加できる様にしたい。
- (6) 最初の研修生にも、再び研修できるチャンスをつけて欲しい。
- (7) 塾の生活はいろいろな面では為になる体験ですが、短い研修期ですので一応電車通学に慣れた頃に入塾したので、又慣れる迄少し負担になりました。電車通学を続けた方が、少しでも心にゆとりを持たせたかなあと思いました。

4. 所 感

27年振りに見る祖国日本は、私がドミニカで想像していた以上の発展したその姿でした。私の出身地は福島県の浜通りですが、道路は田舎のすみずみまで舗装されていました。

6月8日、27年振りに夢にまで見た懐かしい祖国日本の土を踏むことができました。興奮と感動と不安の中をJICAのマークを必死で捜し求めました。そして加藤さんにお会いできた時は、ほんとうに嬉しかったものでした。それがつい昨日のことの様に思い出されます。

27年振りの訪日でしたので私は、二世の方々よりおろおろしていた様に思います。見るもの聞くものみな驚くことばかりでした。そして我々が訪問する先々では、心暖まる歓迎を受け、涙し感謝したものでした。事業団本部が主催して下さった歓迎パーティーに始まり、センター玉川でのパーティー、正善先生からのお招き、緊張していた私達の心をどれ程ほぐしてくれた事でしょう。そして数々の学校参観、学友会、ジャパンインターナショナル参観は特に参考になりました。続いて玉川学園の授業開始、27年振りの私が果して講義を解釈できるかどうか、実に心配でした。しかしそういう不安はすぐ払いのける事ができ、諸先生方の暖かい心に励まされ、例年に無い酷暑の中を無事第一期研修を終る事ができました。それからは、生活にもだいたい慣れてきた事もあり、あっと云う間に過ぎてしまいました。私が本邦研修において得たものは教多くあります。なかでも教師という存在がいかに大事であり、いかに責任のある仕事であるか。それと共にぐらついていた自分の

気持を確かなものにしてくれました。そしてわずかながらも自信と誇りを持つことができました。出身地研修では母校の小学校を訪ねる事ができましたが、昔の面影は全く無く少し淋しい思いも致しました。

しかし校長先生、教頭先生方といろいろなお話をする事ができました。そして偶然泊った三人の従姉の家が代々教師の家柄で、いろいろ教育についてのお話も伺いました。

日本が現在の目ざましい経済発展した原因の一つとしては、明治以来の教育の成果だと思えます。それと今迄余り感じる事の無かった、人との心のふれあいがいかに尊いものであるか、身に染みて感じました。

このすばらしい研修のチャンスを与えて下さった国際協力事業団、玉川学園の方々には本当に感謝いたします。今はただ一日も早くドミニカに帰り、子供達にできるだけの事を教え、伝えていきたい気持ちでいっぱいです。そしていつの日か又このすばらしい研修のチャンスを与えられる事を願ってやみません。

国際協力事業団のみな様、数々の暖かい御配慮、誠にありがとうございました。玉川学園の諸先生方、寛大な御指導本当にありがとうございました。最後にみなさまの御健康と御健闘をお祈りいたします。

私もこの研修を機に増々がんばりたいと思います。

ペルー国リマ市

ラ・ビクトリア学校

具志堅 美智子

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 学校における「教育とは何か」を考えるために、教育を原点から見つめ直す。
- (2) 教育の一部としての「日本語」をどう扱うか、どう教えるか。
- (3) 上記を考慮したうえでのカリキュラムの作成はどうしたらよいか。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

日本語を教えつつ、日本語で（何かを）教え、日本人の血を持つペルー人としての人間形成を目的とした教育をしたい。

日本語を習う事が、義務ではなく楽しいと思わせるような授業作りのために、教師自身勉強していきたい。それには玉川学園で学んだ『遊び』を多めに運用して、当校成りのオリジナルを作り上げたいと考えている。

又、学校劇等も日本語ということにとらわれる事なく、目標を『協力して一つの事（物）を完成

させる』というような視点から導入していきたいと考えている。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

(1) 出身地研修の時期に考慮が欲しかった。

理由は、母校（他校でも）夏休み期間中である、もし研修終了後すぐ帰国するとすれば、普通の授業は参観する事がむずかしいであろう。

(2) 今年度初めてと聞くが、研修の二期（通大スクーリング）の時の塾（寮）生活は今後も続けた方が良くと思う。少々辛かった事は確かだったが、センターに戻って落ちついた段階では、皆の感想は総体的に良いとの事である。唯し、二世の方々は非常に苦労したが、体験して良かったと言っている。

4. 所 感

今回研修生として勉強させていただいて、改めて感じました事は、ペルーが後進国と甘んじている所以が、児童の教育にあると言うことです。

国際協力事業団の皆様のおかげにて、玉川学園にて学ぶことが出来ましたことは、私にとって一生の心の宝と成ることでしょう。

その心の宝とは……と言うのは、児童の教育への指針が見つかったと言うことです。私の勤務しています学校での日本語教育は、第一外国語という位置を示しております。すなわち秘国の公認私立校としての義務教育の他に特別な科目として授業を行っております。近年私達教師は「日本語を教えるのか」「日本語で（何かを）教えるのか」と話し合っていました。今回の勉強で両方スムーズにいけるのでは？という希望のようなものが持てました。教育に一番大切なものは、教師自身の人格ということも身にしみて学びました。帰国してからは、この研修を生かして、日本語だけでなく、人間作りのためにも、父兄、現地の教師達と共に研究し、又私自身の向上のためにも頑張りたいと考えています。

改めて、今回の研修に参加させていただいた事に、深い感謝の意を捧げます。そして私達グループのためにいろいろ細かい事にまでお世話して下さいました皆様、本当にありがとうございました。皆様様の御親切を忘れることなく、頑張っていきたいと思えます。

長い3カ月の間、本当にありがとうございました。

コロンビア国バジェ県

日本語学校ひかり園

筒井 菊代

1. 当初、研修に期待したこと

(1) 日系人子弟に対する指導法について（特に幼児教育の指導法）

(2) すばらしい日本文化の修得と共に、現在の日本の姿。

(3) 複式授業に於ける指導法

母国語としての日本語

外国語としての日本語

(4) コロンビア国では初めての参加ですので各国の教師との日語教育における現状と問題点の討議に期待する。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

一般教養、専門部門、実技実習、見学等あらゆる部門より研修させて頂き、心に訴えるものがしばしばあります。現地に帰りましてノートをもう一度整理して意義ある貴重な先生方の講義を再度思い出し、今後の日系人子弟の日語教育に幾つかでも生かして行きたい気持ちでいっぱいです。私の「わからなかったのは、ここだったのだ」と思う所が、先生のお言葉よりひしひしと伝わりうなずく。そして、「ああ日本に来てよかった」と心の豊かさを感じます。この様なことが今後本当に役立つものだなァ…と痛切に思います。即ち御教えた全人教育のすばらしさを末ながく私達の心で伝え導かねばならない指命だと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

玉川学園で学びましたすべては、大変今後の日本語教育に大切なことです。又、日本の現在の姿教々その学校参観等、3ヶ月間最高のスケジュールであります。中南米の先生方が出来るだけ多く研修されることを望んでやみません。

私の学校も次回の研修を首長く待ち望みます。

4. 所 感

3ヶ月間の研修日程、非常にまとまったスケジュールで、私達何の問題もなく楽しく受講修了出来ましたことを深く感謝致します。1、2、3期と研修旅行と雰囲気の異った分野で申し分ありませんでした。

最高のスケジュールでした。私達6回目の研修でさぞ事業団、玉川学園の方々の御苦勞を一しお

身にしみ思いでなりません。私は出発前3ヶ月の月日は長いと思っておりましたが、研修を終えた今は、やはり必要な日数だったと満足致しております。伊豆長岡では童心にかえり、汗を流し創作劇にとりくんだこと、無我夢中だった自分が何だか恥かしい思いです。又、玉川の坂道、最初は大変苦痛を感じました。コロンビアでのテンポがぬけきれず……でも1ヶ月過ぎると、日本のテンポにかえり、現在日本社会の生活に慣れて、これが秒単位に動いている社会だなあと気づきました。これも日本文化の一つを吸収したのだと自分にいいかせております。

上原先生の講義の中に、言葉とは文化を伝えることだとおっしゃいました。私にとっては大切な重大な課題であり、今からが学問だなーと思っております。

玉川の坂を登り学んだことは、これからも登りつつ歩み続けたい気持で筆をおきます。

どうも有難う御ございました。

カナダ国オンタリオ州

トロント国語教室日本語学校

鈴木 美知子

1. 当初、研修に期待したこと

カナダからは初参加であり、手がかりとなる唯一の資料は昨年度の研修日程のみなので、「よし、すぐ役立つともよし、何でも吸収し、自分のこやしにしよう」との心づもりを決めてトロントを発って来た。尚、3ヶ月あるのだから、この間に何とかして手がかりをつかみたいと希ったいくつかのことは下記の如し。

- 教育の原点の確認
- 教科単元の精選の選択基準の定め方
- 単元精選でうまれた時間の活用方法
- 日本の国語教材の検討
- 現地に即した教科書作りに関する着眼点
- 児童、生徒に対する文字(平・片仮名、漢字)の導入時期及び方法

2. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

当初研修に期待したことは全て満たされ、あふれるばかりの取獲を得ることが出来たことは、唯唯感謝の一語に尽きる。今後は事情の許される限り、しっかりとカナダ日系社会の次代の担い手達の日本語教育に取り組んでいきたいおもう。玉川で学んだ全人教育の精神を核として、生徒一人一人の心のあり方をこそ大切に、受け持つ生徒達に対し、単に教科書を教えるのではなく、日本人の姿勢を姿勢として学ばせられる教師仲間を一人、又一人とふやし、"感覚と肉体が一つになると

ころに言葉がある。"というその言葉をしっかりと受け止め、共に研さんし、すすみ続ける教師達で日本語学校をみたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

(1) 学習内容

第Ⅰ期のスケジュールがあまりに多岐にわたり、かつどれも大切であるが、受講してどの科目も時間不足であり、充足感が得られなかった。Ⅱ期、Ⅲ期の内容とつき合わせ、整理検討することにより、もう少し改善されるとおもう。

(2) 塾生活

玉川の奥座敷に身を置く体験はすばらしく、塾に居ればこそ道元研究会にも出席出来たし、ヨセブを観ることもできた。が、ある日、キャンパスを歩るいていて、通大生の声を耳にした時、通大生と一箱の部屋だと、やはりいろいろ迷惑をかけていることを知ったので、一考の要ありと反省させられた。

(3) センターでの生活

昨年比して、大きく改善して下さっているので大変感謝である(第5回生の研修記録を読んで知った)。

① アイロンの管理の仕方……屋上と1階を2往復するのは、疲れて帰る暑い日々にはいささかうんざりし、苦痛だった。

② テレビがロビーに1台なので、つい男性にゆずり、一寸くつろいで1日の出来事など見たいなと思ってもえんりょしてしまい、日本に居ながら、日本の出来事にまるでうといと云う妙な状態だった。

4. 所感

今、カーテンを秋風がゆするセンターの部屋で、静かに3ヶ月をふり返ってみるとき、思うさま勉強させていただいたとしみじみ思う。又、すさまじい暑さの中、一人の落伍者もなく、一同やり通せた感慨は一入である。

小原学長を頂点に、玉川の丘のいたるところに真実なるものがあり、本物の放つ光にふれ、日いく度胸をうたれたことだろう。思えばこの3ヶ月間、毎日、何か新しいものとの出会いがあり、魂がゆさぶられ続けた。この間に教えを仰いだ先生方は何人に及ぶだろう。どの先生との出会いも自分にとって、一期一会である。新しい科目の始まる日を待ち、先生との出会いに期待をよせる心のときめきは、ずい分昔にどこかへ忘れてきてしまったことの再発見であった。が、これは又、会者定離のことわりどおり、そのときめきの数だけお別れの言葉をのべることもあった。全期間を通し、お世話になったどの先生方も、短い持ち時間の中で御自分の大切なエッセンスを、おし気も

なく、精魂こめて講義して下さった。この先生方の姿勢をこそ、最も深くまなぶべきだとも思う。

この体験は、過去の人生のどれほどに匹敵するのだろうか。これほどに密度の濃い学習を、人生の半道中を来たこの期に及んで経験させていただけたことは、唯々感謝である。

おもうさま乳をのんだ赤子の如く、今、求め続けていたものを得た不思議なほどの平安が、ひたひたと心をみたましている。実践はこれからである。しっかりと掌の中にあるこの原石をどこまで磨きあげられるだろうか。気張らず、無心になって生徒達と向い会い時、きっと彼等がみがき方を教えてくれるだろう。

道元研究会に集うた夕暮れにきいたひぐらしの声は、まだ心の中に鳴っている。

夏期大学の分科会で出会った朗読演習指導をして下さった富田先生にも、大切なことを学ばせていただいた。

このようなすばらしい体験を可能にして下さったJICAの皆様、玉川学園やセンターまでわざわざ足をお運び下さった先生方、国際教室の皆様、全ての方々に心から深く御礼申し上げます。ありがとうございました。尚、共に研修にはげんだ研修生の皆さんの今後の御健とを祈ります。

つひの授業 終りて帰る道の辺に どくだみは早や実となりたり

9月5日、修了証をいただきに訪づれた玉川の丘に、このどくだみはもみじする日を待つ姿を見せていた。家族と生徒達の待つところへ帰る日が来たのだ。

研修総括報告書

期間：1984年6月8日～12月14日（Bコース）

1. 当初研修に期待したこと

- (1) 外国人を対象とした日本語教授法の習得
- (2) 日本語に関する能力の向上
- (3) 日本文化に関する知識の習得
- (4) いろいろな教育機関の見学, 又は授業参観
- (5) 上記事項に関する文献, 資料の蒐集

2. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

- (1) 習得した日本語教授に関する教えと方法を生かして現地にあった授業を行ないたい。
- (2) 外国語として教える日本語ですので, 視聴覚教育をできるかぎりとり入れ, バリエティーのある授業を行ないたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 中南米諸国の日語校と一番共通点があると思われる僻地の小・中学校の授業参観を加えてほしいと思います。
- (2) 研修生により日本語能力に差があるので, これが十分な研修成果を得る上での一つの障害となったと思われます(同じ講義内容です)。この問題をなんとかしてほしいと思います。
- (3) 日本語教授法, 国語文法, 文型の時間を増してほしいと思います。

4. 所 感

アマゾン育ちのスローモーな私には, 今回の分核みの生活は目まぐるしく過ぎさった感じで疲れをおぼえたが, とても有意義に過ごすことができた。

色々なことを学び, 経験をした。この3ヶ月…初めての短歌作りと習字, 玉川学園での塾生活…, 猛暑中のスクーリングでは, ①青年心理学, ②宗教哲学, ③国語, ④絵画製作を選択し, それぞれ①は教えている青年達の心理理解のため, ②は玉川学園の校風にふれたいため, ③自己学力向上のため, ④は教材作りに役立たせたいため, の汗だくの勉強であった。

人間味あふれる玉川の先生方には真の意味での教育は, 人間教育であるということを見せていただいた。そして楽しい時も苦しい時もいつも一緒に行動した仲間の19人の先生達とは良き出会いとなった。

15名の先生達は先にそれぞれの国へ帰られたが、私たち5名はまだ先3ヶ月あるが、皆と力を合わせこの過ぎ去った3ヶ月に負けない充実した研修となるようがんばりたいと思う。

前の3ヶ月にもまして広い範囲で研修ができた。私たちのBコースは初めてのところみなので、時間のムダがあったように思うが、その反面、“ルールをしかけていない”ということで私達の都合も入れていただけたという利点もあった。

今学期は玉川大学、又は短大に入れていただき、それぞれ各自が科目を選んでの研修であった。途中から入ったことでついていけないところもあったが、色々な面で学ぶことができた。

講義は月曜日から木曜日まで受け、金、土曜日は主に教育機関の参観にあて、とても参考になった。

北海道研修旅行、国際好研修センターでの日々はよい思い出となり、特に私たち5人の交流をとっても密着したものにした。

今まで習得したことを活かして、これからもがんばりたいと思う。

国際協力事業団の皆様、玉川学園の諸先生方、本当に有難うございました。

ブラジル国サン・パウロ州

サン・パウロ日伯文化連盟

物部 テレザ 貴代子

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 祖父母の故郷、日本の文化の風習を実際に見、理解し、少しでも身につけること。
- (2) 日本語の表現力(話すことと書くこと)を向上すること。
- (3) 国語力を向上すること。
- (4) 外国語として日本語を教える場合の効力のある教授法
 - ア. 児童に教える場合の教授法
 - イ. 成人に教える場合の教授法を習得すること。
- (5) 国語として日本語を教える場合の教授法
 - ア. 児童に教える場合の教授法
 - イ. 成人に教える場合の教授法を習得すること。
- (6) 日本語の授業を楽しいものとする方法を習得すること。

2. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

- (1) 日本で試みた日本文化の風習を考慮しながら、日本語を教えていくこと。
- (2) 玉川学園、或いはセンターで教わった科目を、帰国してから一人にでも多く伝えること。

- (3) 全人教育に基づいた思想をブラジルの日本語教育に応用すること。
- (4) 外国語としての日本語教授法をブラジルの学校に応用すること。
- (5) 国語として日本語を教える場合の教授法を、現在、担当の初級の5～6学期に応用すること。
- (6) 玉川学園、或いはセンターで教わった折紙、工作、歌遊び、劇遊びを使って、楽しい授業を行なうこと。
- (7) 参観した学校の授業を参考にして授業を行なうこと。
- (8) 女子センターで教わったことを一人にでも多く伝えること。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) この6カ月コースのスケジュールは大変ハードであったが、とてもよく立てられていると思う。せっきくの6カ月コースなので、多くの科目の勉強が出来、とてもよかったと思う。
- (2) 1期から5期を通して、振り返ってみると、それぞれいい点がたくさんあるが、一番適切な期間は1期だったと思う。だから、もしも出来たら研修生だけの為の授業を設けられたらいいと思う。
- (3) 女子センターで受けた研修はとても参考になり、これからもずっと続けて欲しい。ただし、10日間だけでなく、3週間ぐらいが適切だと思う。
- (4) この6カ月間、一緒に勉強した先生方、又は玉川学園の諸先生方とも接触を保つ為、先生を招待し、研修の先生方と共に南米で講習を受けられる機会を与えて頂きたいと思う。

4. 所 感

6カ月の研修、長いようで短い期間だった。その期間には、色々たくさんの科目の勉強が出来、振り返って見ると、まるで夢のように思い出される。その言葉で表わせない素晴らしい研修の機会を与えて下さった国際協力事業団に心から御礼申し上げます。

ブラジルで生まれ、ブラジルで育った三世の私は、日本へいつか勉強に来られるとは夢にも思っていなかった。成田空港に到着すると同時に不安な気持ちが湧いてきた。それは「一世の先生方と一緒に勉強して、講義についていけるかどうか」との疑問があったからであった。けれども、「一世の先生方に負けないよう、努力しよう」と堅く決心した。それが研修の第一の目的であった。

初めて見る日本は、絵はがき、或いは写真で見る日本よりずっとりっぱで、想像以上だった。見るもの、聞くもの、凡てが珍らしくて、朝、起きた時から、夜、寝る時まで「日本語を聞く話す」24時間教育という貴重な経験は、ブラジルで得られないものだと思う。

雨季の第1期。毎日のように降る雨の中を、傘をさしながら玉川の丘に通ったことや、又は3時間の電車での通学、玉川学園の親切な先生方や子供になって遊んだ楽しい授業は、いつまでも思い出に残ることだろう。

玉川の塾で過ごした第2期、又は蒸し暑さの第2期。スクーリングで出会った日本全国のお友達、又は私達の選択の科目の先生方や、その授業、1年の科目の授業をスクーリングの3週間で勉強したことは、とても容易でないと思う。今は、その科目をどのように私の学校に応用していったらよい結果が得られるかどうか心配である。

センターで授業を受けた第3期。外国語としての日本語、又は現地へ帰ってすぐ教えられる折紙や工作、ブラジルの子供達には一番いいおみやげだと思ふ。そして思い出に残る関西旅行と出身地研修。凡て楽しいことが重なり、一生忘れられない研修だと思ふ。

玉川の大学生と共に勉強した第4期。(Bコース、9~12月)最初は、もう1期に始まっていた授業の内容があまりよく分からなく、とまどったが、だんだんと授業が分かるようになり、日本の大学生と意見を交換することが出来、大変貴重な経験を習得したと思ふ。第4期にはまだ東北~北海道旅行もあった。日本独特の紅葉の美しさ、自然の美しさと和して、いつまでも私達二世、三世の組の印象に残ることだろう。4期はまだ色々を日本の代表的な学校の授業参観の期間でもあった。経験の深い先生方の授業を参観し、色々と教えられるばかりであった。帰国してから、その先生方の授業を参考にし、教え、生徒達の反応を見るのが何よりも楽しみである。

そして、いよいよ研修の締め括りとして、国際女子研修センターで勉強した期間。茶道、生け花、日本料理...凡てが私の元々習いたいと思っていたものであり、研修の締め括りとして最高だったと思ふ。

雨季から初冬にかけて、日本の季節の移り変わりを感じながら、6カ月間の研修を受けた。長いようで短い期間だった。その期間に色々なことを体験させて頂き、私自身も少し成長したような気持ちである。

最後に、この素晴らしい研修の機会を与えて下さった国際協力事業団の皆様、並びに、私達を暖かく迎えて下さった玉川学園の皆様、諸先生方、通信教育部、又は国際教育室の皆様、センターまでわざわざ来て下さった諸先生方、国際女子研修センターの諸先生方、又は事務の皆様、海外移住センターの皆様に大変お世話にきり、厚く御礼申し上げます。

ブラジル国サン・パウロ州
サンベルナルド日本語学校
中原 マリア

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 新しい経験から、視野を広め、新しい知識を得て教養を高めること。
- (2) 日本人の日常生活や、言語活動の実態を見聞する事から、生きた日本語に接し、自分自身が、まず日本語を学ぶこと。

- (3) 正確な日本語の修得。
- (4) 日本の伝統、文化、歴史などに触れ、祖先の国を知り、日本人の持つ国民性、習慣、日本的感情などを理解すること。
- (5) なるべく多くの小学校、または幼稚園の授業参観をして、日本の学校教育制度、その内容などを見て、わが国と比較し、教育理念、教育方針、教授法などを参考にしたい。
- (6) ブラジル人として、日本を幅広く見聞し、日本語教師としての立場を考え、日本人的常識、習慣、態度を習得する事。
- (7) ブラジルでも応用出来る学校行事の内容を習得、また、伝統的行事を見聞して、日本の子供達の生活様式を知る。
- (8) 低学年のため、日本語を日常生活と結びつけて、楽しく遊びを取り入れて学ぶ教授法、また、その教材と教具の研究。
- (9) 日本人と接し、日本の生活様式を身近に感じて
- (10) 日本の学生の中に解けこみ、その生活について見聞し、意見を交換し、その世代の考え方などを知る。
- (11) 講義の外、小、中学校、幼稚園などを見学し、可能なら授業参観もする。
- (12) 都会だけでなく、へき地の学校も見学し、日本でへき地教育について見聞する。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- (1) この3カ月間の研修で得た僅かな知識の中から、日本の持つ伝統、文化などを何かの形で、二、三世遠に伝え、興味を持たせ、日本語を単なる語学としてでなく学び、日本人の心を感じ取ってもらえるようにしたいと思います。
- (2) 子供達が親しみを持って自発的に、より楽しく学べる日本語教育法を研究して行きたいと思います。
- (3) 幼児教育では、表現活動に力を入れて、岡田陽先生のお言葉のように、「表現活動の繰り返しのよって、子供の内面にある感情や思考が豊かなものとなり、表現することに自信のある、ためらいのない子供にしたい」を念頭に、楽しい劇あそび、ごっこあそびや、みぶりあそびを取り入れて、日常生活の中でも、日本語に親しんで行かせたいと思います。
- (4) 方先生の表現教育や、小野先生のリトミックなどを、出来るだけ幼児教育に取り入れて、子供たちの内面的な感情や思考を型にはめなくて、自由に現わすようにしたい。表現させることによつて、子供たちの内面生活を豊かなものに育てたい。
- (5) 上原先生の云われた「言葉を覚えさせるより、感覚を覚えさせること、感覚を基礎にして感情を作っていく」ということは、幼児教育では是非実行して行きたいと思います。
- (6) 自然に言葉に親しみ、読むこと、書くことよりも、話すことを中心にした日本語教育を始めた

いと思います。

- (7) 児童の父兄と教師の話し合い機会を多く持つよう心掛け、家庭教育を重視した上での教育を、みんなで考えて行きたい。
- (8) 岡田陽先生の言語表現、岡田純子先生の身体表現を応用しながら取り入れて、教育活動にはもとより、対人関係にも活用し、二、三世の表現力を豊かにすることに役立てたい。
- (9) 書くことによりも、読むことを尊重し、読むことによりも、話すこと、さらに日本語で感じることを、考えることに重点を置いて、自然に日本語に親しんで行くふんい気の中で授業を進めたい。
- (10) 片山先生に指導していただいた文章表現法、また、徳座先生の講義での注意を念頭に、日本語をより深く学び、作文指導が出来るようになりたい。
- (11) 繁下先生のリズム感、簡単な楽器の面白さを伝え、音楽になじませたい。

3 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) この研修は、体力的にも、精神的にも、疲れることが多いと思いますが、それは年令とは無関係のようで、最年長の方々が弱音も吐かず積極的に、他人の荷物運びなど手伝ったりしていらっしやる光景も目に留まりました。今後は資格年令を制限しないで、3カ月、或いは6カ月の研修に耐え得る体力と精神を持ち合わせていれば、ベテランの先生方にも参加させていただきたいと思います。そうすれば、帰国後、講習会、発表会などで私達とは違った見方で、又冷静な判断で日本を語ってもらえ、研修発表をより充実したものに出来るのではないのでしょうか。
- (2) 本邦研修だけでなく、中南米に於ける研修制度を確立させ、各国の参加者の人数を増やし、もっと多くの中南米日語教師達に、教授法や教育について考えたり、話し合ったりする機会が与えられたら横のつながりも出来て、お互いに助言し合えると思います。他の国の学校の事で参考になることもずいぶんありました。
- (3) 今回初めての入塾はとてもよい経験となり、玉川学園の教育方針などを知るためには必要な事であり、また、日本の通大生とその生活を知る唯一のよい機会でした。その外、日本の各地方の通大生とも話し合うことが出来て、塾生活はどの面から見ても、有意義でとても貴重な経験だったと思います。今後も続けていただきたいと思います。

但し、全期ですと講義の予習、復習の時間が持てず、気分的にも落ち着かないこともありますので、塾生活はスクーリング中だけとして、やはり後はセンターからの通学が望ましいと思います。

- (4) 今回の6カ月研修は、後の3カ月を各自の選択によって選ばれた科目の授業を聴講することになりました。9月から始めて12月までのわずかな期間で、しかも科目によっては授業を途中で打ち切ることになり、肝心の結論を見られなかったこともあり、残念に思います。9月から始まる科目内容もありますので、私たちの授業は9月に開始されても良いとしても、せめて終了をも

う少し延長して終らせなかったと思います。

- (5) 二、三世のために、本邦研修とは異った内容の私たちの学習経験に適した研修を、企画していただきたいと思います。その意味では、女子研修センターでの特別企画では、思いがけない機会を与えられ、感謝しております。

茶道や、生花、日本料理の基本、坐禅、精進料理などは、私たち二世や三世が日本人の心、日本を知るために是非身に付けたいものです。

4. 所 感

井の中のかわずであった私が、生れて初めて飛行機に乗り、初めて見る日本は、期待よりも不安の方が多く、機内に入ったその瞬間から、すでに研修が始まっていたような気がいたします。

一生に一度のこの機会を、少しも無駄にしてはならないとの思いが、緊張感に変わり、視聴覚で周囲の事を常に意識しながら、少しの動きも見逃さないようにと追いつけておりました。すべてが珍らしく、飛行機でアナウンスされる日本語の発音や、言葉づかいの善し悪しを考えて見たり、電車の中で聞く日本人の会話にも耳をかたむけ、また、目に留まる活字という活字は、本屋さんの書籍棚の書籍名からポスターに至るまで、飢えたように読み尽くしました。

出発前から責任の重大さを言い含められて来た事もあり、また、私自身は他の二世と違って、正式に日本語学校を終えておりませんので、この程度の日本語力について行けるものなのかと、不安もありましたが、米ってしまった以上はと、もう無我夢中で、精一杯の努力はしてまいりました。ただ、国語辞典と漢和辞典、それに和語と和語の辞典などで一語、一語、または一字、一字調べてかからないと、レポートや感想文はもとより、アンケート一つ書く自信が持てず、書いた物を提出する日には、いつも夜はじめて、明け方までかかったりして、睡眠不足の日が続いたこともありましたが、幸い病気にもならず無事に3カ月間を過しました。また、体調の崩れそうな時には、即座に相談に乗って下さいました海外移住センターの江崎様、玉川大学国際教育室の地主様には感謝の意を表します。

これからの3カ月間、私達5名だけが残りますが、漸く日本での生活にも馴れて来ましたので、これからは、もう少しゆとりを持って、視野を広げて行きたいと思っております。

後3カ月の学科目の選択について、色々と助言して下さいました正善先生と片山先生、御多忙中本当にありがとうございました。先生方の御忠告通り、今後はあまり欲張らず、科目を少なめに取り、量より質を重んじて行きたいと思っております。上原先生の御言葉ですが、「学問と云うものは、悠悠、閑閑とやらなければならない」ということは、今までの3カ月間の研修で痛感してまいりました。これからの3カ月間は、悠悠とまでには行かないと思っておりますが、もう少し心を落ちつけて、今までの様な詰め込み主義で再生的思考に頼るばかりでなく、じっくりと考えながらの勉強で、生産的思考への道がひらけることを期待しております。

この研修もあと僅かになりましたが、残りの日々を有意義に過ごし、悔いの無い一生の思い出とな

る研修にしたいと思っております。今までお世話になりました国際協力事業団の皆様、並びに海外移住センターの皆様、玉川学園の先生方、国際教育室や、通信教育部の方々、本当にありがとうございました。今後ともよろしく願い申し上げます。

9月から12月までの3カ月間は、最初の3カ月間以上に有意義なものでした。

日本の学生たちと共に学び、共に考え、意見を交換したり、質問をし合ったり、まるで学生時代に戻ったような錯覚にとらわれて、その気分に浸ることが出来ました。

一見、冷淡に見えた学生たちと、3カ月間机を並べて勉強をしたことで、打ち解けて話せるようになり、永井先生の家庭教育の授業では、英語文で意味の解らないところなどを翻訳してもらったりしました。

そして、私にとって最後の日には、授業が終るとすぐ、いつの間にか準備してあったお茶やお菓子を出し、茶話を開いて、花束まで渡さえ、感激しました。暖かい心遣いは身に染みてうれしく感じられました。

また、岡田純子先生の授業では、身体表現法のアイデアを学生たちから学んだり、みんながのびのびと自信を持って表現する姿に感心したり、話し合ったりする機会もあり、楽しい授業でした。

この身体表現の授業でも、最後の日、私と高市さんがお別れの挨拶をし終ると、一人がざっと立ち上ってピアノの前に行ったと思うと、みんなが自然にそのピアノに合わせて別れの歌を歌い出したことで、更に実感が湧いて来て、感動の連続でした。

自発的にピアノを弾き始めた人、歌いながら泣いていた女子大生、一緒に歌って下さった岡田先生、小野先生、共に学んだ学生の方々と、私たち二人は名残惜しい思いでお別れしました。

私たちが数々のことを経験し、楽しい思い出を残すことが出来たのは、教えきれない程の人々の目に見えない努力、力添えがあつてこそと思います。

特にお世話になりました方々だけでも十数人のお名前を念頭にうかべることが出来ます。

正善先生には、見学の際、案内していただいたり、対人関係の点で解らないことを相談したり、いろいろご心配をおかけしました。

案内していただいた中でも、日本語研修所である財団法人国際教育振興会一日米会話学院では、正善先生を通して青山先生に見せていただいたビデオテープのダビングをお願いしたり、ご迷惑をおかけしたことと思います。

幸い青山先生は快く引き受けて下さったので、ブラジルへ帰って役立てることが出来ると思います。青山先生には、お礼の申し上げようがありません。

そして片山先生には、国語の授業以外の時間にも、研究室で私たち5名が文章の添削、文法や敬語を解りやすく説明していただきました。

無報酬で国語教育に対して熱心に力を尽される片山先生には、本当に頭が下がります。

その外、お世話になりました先生方、国際協力事業団の方々、海外移住センターの方々、最後まで面例を見ていただいた江崎様には、ご迷惑をおかけしたことを申しわけなく思い、また、感謝しております。

アルゼンティン国ブエノス・アイレス州
ノルテ日本語学校
高市春子

1. 当初、研修に期待したこと

(1) 私は二世の日本語教師として、出来るだけ日本の語彙を多く学びたい。

- ・ 日本語の学習：どんな勉強をすれば良いか。
- ・ 6カ月間の研修をどのようにしたら十分効果を上げられるか。

(2) 幼児教育：小学校低学年の指導

- ・ 日本語の指導に関係する教材、教科書などの理解

(3) 私は外国に住んで居る日系人としても誇りを持っています。研修期間、ただ日本語を「日本語教育」としての勉強だけでなく、「日本の心、日本人の心」を少しでも理解して、帰国後日本語学校の子供たちに伝えたい気持です。

(4) 全人教育についての勉強。

- いろいろな学校を見学し、教授法を身につける。
 - ・ 日本語を外国語として教えている学校
 - ・ 外国人の為の日本語
- 「日本の心」に親しみを持ち、この学びを通して現地アルゼンチンで日本語教育を進めたい。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

玉川大学で学ぶことが沢山ありました。この研修を生かす為には、まず、教師の立ち場として、もっともい教師になりたいのです。教育に対して広い視野で、一人一人の子供の心を大切に、「豊かな心」の人間を育てたいのです。

玉川大学で学んだこと、日本で経験したことなどをアルゼンチンの環境に結び合せ、現地に合う指導方法や教材を工夫しながら、アルゼンチンの日本語教育を充実してみたいと思っています。私が日本で学んだこと、ただ全国の日本語学校の諸先生方に伝えるだけでなく、アルゼンチンの公立学校や教師達にも報告してみたいです。

研修期間、表現活動が身についたので、日本語を教える時、より効果的であることが分かりました。言語的な表現活動、身体表現、音楽リズム的な表現活動などを通して、楽しみながら日本語や日本

のことについて、アルゼンチンに居る日系の子供たちに教えたい。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

今年度もアルゼンチンから2名ほど本邦研修をさせて頂いて、心から感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。アルゼンチンから初めて2世教師が、6カ月間の研修で大きな希望を持って国を出立しました。

これから、私の国では2世の日本語教師が数多くなると思っております。ですから、

- ・ この研修制度を継続して欲しい。
- ・ 派遣人数を一人でも多くして欲しい。
- ・ 研修期間を6カ月から1年にして欲しい。

後、残りの3カ月、本邦研修を続けさせて頂いて深く感謝して居ります。9月に入って、日本の生活と玉川大のリズムにも慣れて来ました。けれど、本学ではもう2学期が始まり、どの授業にも参加しても科目の内容がかなり進んでいましたので、この流れに入り込むことが私にとっては難しいことでした。1学期から参加し、それとも2学期から3学期を通して研修が出来れば、より効果的と思いました。

玉川大学の研修以外に、いろいろな日本語教育研究所に参加させて頂きました。どの研究所へ行っても恵まれた教材や設備などを持って居られ、うらやましく感じました。現地アルゼンチンの日本語学校では、とても考えられない設備です。

一般の学校を見学することも、良い勉強になると思いました。でも、短期間で日本の大学生と同じように勉強したり、いろいろな授業参観をさせて頂いて大事な経験となりました。

4. 所 感

この3ヶ月の研修はアッと言う間に過ぎ去ってしまいました。楽しかったことが数え切れないほど沢山ありました。なかなか言葉で表わすことが難しいです。玉川学園の先生方の深刻なお話し、スクーリングで新しいお友達が出来たこと、楽しかったキャンプ実習や音楽の時間など、素晴らしい経験でした。夏期スクーリング中、玉川の塾に入りました。私は要領の悪い為、又は日本の習慣に親しみを持っていないことで、塾のお友達に大変めいわくをかけたと思います。私たちののんびりした中南米生活では、ぜんぜん経験のない塾生活に入り込み、困ったことも度々ありました。でも一つの大切な勉強になりました。

関西地方研修旅行、出身地研修もさせて頂いて、一生忘れることが出来ない思い出と成りました。幸いに、あと3カ月の研修がまだ残って居ります。

国際協力事業団、並びに玉川学園の諸先生方、これからもどうぞよろしくお願い致します。

6月から9月までは良い勉強になりましたが、後の3ヶ月は大変素晴らしい経験となりました。

残念ながら、私の日本語の力は特別に充実していません。現地アルゼンチンに於ける日本語教育法については、これからいろいろと勉強しなければいけません。でもこの6カ月間、日本の現状に親しむことが出来ました。著者の特色な話し方、便利な家庭生活、ご丁寧に案内する電車の乗務員の方、塾が多くて遊ぶ時間もない子供たちの姿、むし暑い夏、美しい日本の秋、"あたたかい"冬（どこへ行っても暖房が入っています）などを体験し、日本の心が少し分るようになることが出来ました。この心を現地アルゼンチンに居る子供たちに伝えながら、日本語を楽しく生かしたいと思って居ります。

玉川大学音楽祭でベートーヴェンの「勸喜に寄す」を歌うことが出来、本学での研修の最高の締りでした。又は、国際女子研修センターでの特別研修をさせて頂いて、日本の文化をしみじみと感じることが出来、収穫の多い経験でした。

国際協力事業団、玉川学園、事務局室、並びに国際教育室、見学させて頂いた諸学校や研究所、国際女子研修センター、日本の皆様

どうも ありがとう ございました！

どこかで、日本の空とアルゼンチンの空がいっしょになります。その結びつけたところで私の感謝の気持をいつまでもいつまでも込めておきたいと思います。

国際女子研修センターでの特別研修

アルゼンティン

高市 春子

昭和59年12月4日から13日まで、日語教師Bコース5人共、茅ヶ崎市の国際女子研修センターで特別研修をさせて頂きました。研修内容は次のようでした。

- 日本文化の特質 葉手先生
- 生 け 花 洲岡先生
- 茶 道 吉永先生
- 日 本 料 理 太田先生
- アートフラワー 白井先生
- は り 絵 宮地先生
- 鎌倉見学、法話、坐禅
- 日本の家庭生活について

6カ月間、日本で生活をしながら毎日が日本文化の勉強に成りましたが、この特別研修を受けて日本の独特な文化と親しむ事が出来ました。生け花、茶道、日本料理、雨被る秋の鎌倉見学などは

心身共に感覚しました。こんな素晴らしい機会は人生でそうないをつくづく思いました。

国際女子研修センターでの共同生活も大変良い経験と成りました。物を大切にすること、他人に役に立つ事をする。小南先生からも大事なお話を聞かせて下さいました。

短期間で学ぶ事が沢山あり、又は帰国の準備や研修のまとめで一つ一つの事について深く味わう事が出来なくて残念と思いましたが。でも実際に生け花、はり絵、茶道などを体験が出来て、日系人として日本語教師として、非常に大切な経験でした。

アルゼンチンの環境は日本と全く違いますが、帰国後、女子センターで学んだ事を一つだけでも十分に生かしたいと思って居ります。

国際協力事業団、国際女子研修センターの皆様、どうもありがとうございました。

ペルー 国 リマ 市

太田 みどり リーリア

1. 当初、研修に期待したこと

- (1) 日本語力の増強。
- (2) 日本語のあらゆる教授法。
- (3) 外国語としての日本語（二・三世、純ペルー人のための教授法）。
- (4) 外国人のための日本語学校を参観する事。
- (5) 他国の教師と教授法について話し合う事。
- (6) 日本の文化や習慣を知る事。
- (7) 日本の歌やおどり。
- (8) 日本の大学生と一緒に勉強する事。
- (9) 日本の大学における授業展開状況。
- (10) 作文上達方法の習得。
- (11) 帰国後、初めての教師経験になるので教える事に自信を持つ事。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- (1) 玉川学園で学んだ事を帰国後出来るだけ早く、活用したいと思っています。
- (2) 生きた日本語を正確に効率的になるため、教育表現、リトミック、歌や歌遊びを活用して子供達が楽しく日本語を学べるように努力したいと思っています。
- (3) 授業参観で見た事、聞いた事、日本の風土、日本人の習慣や考え方について、ペルーの学生達に伝えたいと思います。

- (4) 教授法はほんのちょっとしか習いませんでしたが、大変参考になるので、これから教師になる二世、三世の方々に伝え、一緒に研究したいと思っています。
- (5) 玉川で習った「出来るだけやさしく、楽しく、無理なく、理解出来る」を目指して日本語を教えたいと思います。
- (6) 教科書だけでなくテープレコーダー、ビデオ、フィルム等の教具、教材を活用した授業を試みたいと思っています。
- (7) 玉川大学で教わった事を授業に取り入れ、現地に適するカリキュラムの編成を研究したいと思います。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 玉川で一世と二世の先生方が一緒に講義を受けましたが、二世達にはちょっと難しかったので、出来たら来年から別々のコースを受けさせた方がいいと思います。
- (2) 国際学友会で教えている外国人のための日本語は、私達が現地で教えている外国語としての日本語とよく似ているし、いい参考になったと思いますので、授業参観を増やしてほしいと思います。
- (3) 今年は私達が初めて玉川の塾に入る事になり、いい経験になったと思いますが、自習時間が足りなかったため、よく勉強が出来なかった。又落ち着かないのでこれからはセンターから通うようにした方がいいと思います。
- (4) 指導法やカリキュラムの編成についてもっと習いたかったと思います。
- (5) 6カ月間の研修は大変勉強になったと思いますが、玉川大学での授業は中途半端という感じがしましたので、出来れば来年からはこのコースを1年にしてほしい。又この研修が4月に始まるう日本の学生と一緒に1学年の勉強が出来るし、日本の季節変化も見ることが出来ると思います。
- (6) 私達に合うカリキュラムに従って研修を受けたいと思います。そうすると日本語力も上がります。
- (7) ベルーでは最近、日本語を習う学生がどんどん増えていますが、それに見合った教師の数が非常に少ないので困っています。これから日本語の先生になるための日語研修がありましたら、この問題が少しずつ解決すると思いますので、教師希望を対象にした研修をお願いしたいと思います。

4. 所 感

スクーリングの間、玉川大学の塾に入り、3週間塾生活を体験しました。日本人と一緒に住んで、日本人の習慣や考え方を近いところから見る事が出来、ベルー人の習慣や考え方と比較する事が出来ました。

- 文化史の勉強と共に鎌倉や東京見学をし、昔の日本を知る事が出来ました。
- 中期のセンターで受けた授業は現地へ帰ったら、すぐに応用が出来るのでいい参考になり、とてもよかったと思います。こんな授業がもっとあればいいと思います。
- 中南米の色々な国の先生方と一緒に勉強し、各国の日本語学校の教授法を知る事が出来ていい参考になったと思います。
- 出身地訪問に沖縄へ行きましたが、学校や大学も夏休で残念ながら授業参観は出来ませんでした。その代り、琉球大学の語学の先生とお会いし、当地での教授法、外国語としての日本語について色々お話を下さり、とても参考になりました。
- 玉川大学で一世の先生方と一緒に講義を受けている時、私にとってちょっと難しくもって日本語の勉強をしなければいけないと感じました。
- お習字を習っている時、正座するのが出来なくて大変辛い思いをしました。
- 日本の大学生と一緒に授業を受けさせて頂き、日本の若い人達と話し合い事が出来、又自分も日本の学生になった気がしました。
- 毎日、センターから大学まで電車で通い、ラッシュアワーを実際に経験し、さすが日本だという感じがしました。
- 日本語教師の予備知識もなく玉川大学で勉強させて頂き、先生方のご指導で少しは教える自信をもつようになったと思います。
- 前半の3カ月間、先輩の先生方と一緒に勉強した専門科目は、教師になるために必要だと思いますが、私には分からなかった部分が大変多かった。しかし後半の3カ月間は自分にとって必要だと思った科目、あるいは現地に帰ってすぐに活用出来る科目を自由選択出来て、大変役に立ちました。
- 日語研修生はほとんど同じ科目を選択したため、教室ではいつも一緒にかたまっていたのですが、一人だけ選択した科目の時は、最初はちょっと不安を感じましたが、かえって学生との話し合いや交流ははかれ、大変よかったと思います。
- 国際女子研修センターに入り、日本の映画やビデオ、フィルムでしか見た事のなかった茶道、生花、坐禅を実際に勉強し独特な日本の文化に接して、大変よかったと思います。又、アートフラワー、はり絵や日本料理を習いまして、ベルギー帰ってからでも続けたいと思いました。
- 大学の講義を聞きながら、日本語の理解力が足りない事と勉強不足である事に強く気が付き、帰国後、一心不乱に日本語の勉強を続けたいと思いました。
- この6カ月間の研修は私にとって大変よかったと思います。この機会を与えて下さった、国際協力事業団、玉川学園の先生方や国際教育室の方々、心からお礼申し上げます。

研 修 日 誌

第6回 現地日本語教師本邦研修日誌

6月8日 金曜日 晴

1984年度、本邦日本語研修生の乗るVARIG832便は、6月6日タサンパウロを発ち一路日本へ。予定より遅れた機は6月8日午後3時25分成田国際空港に到着する。降下する飛行機の窓から見る景色は荒涼とした大陸の海岸線のそれとは異なり、こんもりと木々の繁る山間に広がる水田は丁度田植え前かどの田にも水が引かれ、鏡の様に空を写して美しい。“緑濃きわがふるさと、水も澄む岸ちかく……”とうるわしき故郷を讃えた民謡の一節が口をついて出て来る。

こうして研修生の一員として母国を訪れる機会に恵まれた事を感謝しながら機を後にする。入国管理局の上陸許可印を貰い荷物を受け取りに行く。各自荷物を探し当て税関検査を受けるが殆んど荷を開かれることもなく通過できた様子で順にロビーへ出る。

大半の先生達はロスアンゼルス空港で胸の名札を頼りに挨拶を交わしていたが、出迎え頂いた加藤職員の点呼で今一度確め合う。カナダの先生を除いては同便である筈の筒井先生が見当らず、一時間余り待ってみたが探せないままにバスに乗り込み移住センターへ向かう。

午後7時10分中島研修課長と江崎職員が待機下さっているセンターに無事到着する。荷物をバスから下ろし玄関に置いたままビデオ室に入り、西村渡航課長の歓迎のお言葉を頂く。江崎職員より部屋割りの発表があり、それぞれ鍵を手渡される。リストで上げて貰った荷物を各自部屋に運び入れる。3階301号から1室に女性は2名、男性は3名ずつの部屋わりとなる。

夕食は特別な計いでいつもより遅く7時30分に用意され、熱いお味噌汁にほっと一息つく。台所を受持って下さるのは佐々木調理師で今回は朝夕食事を用意して頂けるとの事、有難度く思う。

早々に食事を終えてそれぞれ部屋にひきとる。足を長くして休めるのは2日振りの事。

大山 記

6月9日 土曜日

梅雨に入る前の特有の蒸し暑さに辟易とし乍ら日本第1日目の朝を迎える。

朝9時4階講義室集合。

ここで始めて末次センター所長にお会いし諸々の注意、心構え等を受ける。

又江崎氏より当センターに於ける3ヶ月間の研修内容、注意事項等を心温まる思いで聞く、3ヶ月間の生活費を預金通帳に繰り込んで頂き、印鑑まで付けて頂くという行き届いた待遇に改めて感謝あるのみ、総勢20名の各国の先生方の自己紹介がある。

3ヶ月間の研修内容も盛り沢山、各々の先生方も心引き締まる思いで決意も新たにされた事と思う。各自が健康に留意され爽り多き3ヶ月としたい。そういう私が健康には全く自信があったにもかかわらず時差の関係が出発までの煩雑な準備にエネルギーを使い果たしたのか夜一睡も出来ず、およそ、

ねむれないなど人ごとであった私の人生の初体験を日本第1日目より印す事になった。

午後は自由時間となり各々思い思いに日本第2日目の楽しい時間を持つことになった。

ばんの 記

6月11日 月曜日 曇

今日からはいよいよ……と思いきや時差ボケも手つだって昨日よりも早く、1時頃、目が覚めてしまう。

9時頃数名の先生方とつれだって銀行見学へ行く、センターの江崎さんがもういらして、お金を引出してもらい。

センターへ帰るとすぐ、お金の価値観に対する日本と中南米諸国のちがいの話をセンター所長から伺う。

10時頃事業団の中島課長に引率され、私たち研修生は事業団本部へむかう。

11:30分、三井ビルへ到着。ブラジルから来られた二世の先生、「地震があったらどうするんでしょ」と、心配そう。

鍋木様の司会のもとに懇談会が始まり、北村部長の挨拶の後、現地日本語教師の自己紹介があり、事業団側からは鍋木様が出席者の紹介をされる。

引き続き、6種類の研修コース、特に私たちの3ヶ月又は6ヶ月の研修コースの内容の説明を主にされ(間に昼食をどちそうになる)それに対する各先生の質問又は色々な要望などがあげられ、「これ以上長くなると要望が多くなりますからこのへんで」と言う。鍋木様の冗談?とともに懇談会は閉会となる。

5名の先生方とともに、小田急デパートにより、それぞれ買物をし、駅のホームの地図とにらめっこしながら、6時近くにセンターへ着く。

小山 記

6月12日 火曜日 曇

今日は玉川学園訪問、9時ロビー集合との事で、皆集まっていたら9時ぴったり江崎さんが入って来られた。さすがは日本。

根岸駅より乗車、江崎さんについて小田急線で玉川学園へと。

横浜駅では乗りかえがあるので特に気を付けて下さい、幼稚園生を引率して下さっているみたいで皆楽しく笑いながらにぎやかに……。

玉川学園前駅でJICA本部の鍋木課長さんが待っていて下さった。そこから歩いて学園へと道にそって花壇の花の美しい事、見とれながら歩いている内に着いた。

玉川学園入り口で記念写真を写してもらった。

女子短期大学校舎に着くと小原さんより日程などの説明があり、証明書やバッジ、沢山の本、それに立派な習字道具までいただく。こんなにもたくさんの人達がいろいろな面で大変なお世話をして下さっている……この研修生の為にどれだけの御苦労がなされているのか……私もその研修生の内の一人、…私にそれだけの価値があるのだろうか……それに答える為には私なりに一生懸命勉強させていただく以外にはないと思う。

いろんな説明があった後、文学部の方に食事の用意がしてありこれから担当して下さる先生方が待って下さっていた。先生方の紹介がありカンパイの後ごちそうをおいしくいただいた。

研修生の紹介後、少し休んで学園内を案内していただいた。小学部は丁度そうじをしていた所でほったたきを赤くして竹ぼうきで落ち葉をはいたり、草取りをしている子供達。杉の木からつかまえた虫を調べている子供、佐藤先生が(こんにちは)と子供達に声をかけて行かれる。(こんにちは)、とはずかしがりもせず答える子供達、本当に素晴らしいと思う……。

礼拝堂から賛美歌が聞えて来た。思わず立ち止まり耳をすます。ああ嬉しい、神様を賛美しながら学べるこの生徒さん達は本当に幸福と思う……。

工学部の玄関にも(神なき知育は知恵ある悪魔をつくる事なり)と書いてあった。

授業室に又集まり、団長さんを決めたり、トレーニング用のシャツなど注文する。

学長さんは会議中だとかでお会い出来ませんでした。

あの広い玉川学園の一部?を歩き(まるでピクニックに行きたみたいでした)帰りはさすがに皆疲れた疲れたの連発。沢山いただいた本、それに素晴らしい習字道具、とても嬉しいはずなのに疲れと人ごみの中でうらめし顔、あれでまだラッシュの内には入らないなんて、ラッシュに会ったら私達いったいどうなるのでしょうか。

引率して下さった江崎さん本当に御苦労様でした。

先生方、歩き回ったせいかな今晚の食事、ほとんどの方がきれいに食べられたみたい、私もあー疲れた、おやすみなさい……。

大天 記

6月13日 水曜日 雨

今日は朝から雨ふり。でもJAPAN INTERNATIONAL SCHOOLの参観日なので、皆、雨にも関わらず張り切って根岸駅へ向かった。電車は駅を8:34分に出発した。原宿へ着いたのはもう9:30分ごろだった。そこで正善先生、御夫婦と合い、先生の御案内でJAPAN INTERNATIONAL SCHOOLへ歩いて行った。学校ではもう授業が始まっていたのでその最後の15分を見せていただいた。先生は平手先生でとてもやさしそうな先生だった。生徒達は、日本人と外国人の合いの子、又は純外国人であった。先生はまず最初に自己紹介をさせた。それから作文を読ませていた。テーマは「夏休みの予定」であったが、生徒達は作文を上手に書き、又、それをきれいな発音で読ん

でいた。なんとなく中級のクラスだと思われないクラスだった。その次のクラスは金松先生の初級のクラスだった。先生は実物やカードを使って楽しそうに教えていた。初めての練習は「アイウエオ」の練習だった。その次は「大きい」と「小さい」、「長い」と「短い」、「上」と「下」、「右」と「左」の形容詞や名詞の練習しているうちにいつの間にか時間が過ぎ授業の終わりとなったので地下へ下りた。そこで、まず最初に白鳥先生から学校についての説明があった。それから生徒達の作文を聞かせていただき、劇も見せていただいた。先生方は子供達の上手な発音に感心し、劇が済んだ後、生徒達に色々質問をしていた。そこに校長先生がいらして、「カリキュラム」のことについて話された。1:25分 JAPAN INTERNATIONAL SCHOOL を出て、近くのレストランで昼食をした。その後、正善先生に案内していただき、明治神宮へ行った鳥居の前で記念写真を撮り、そこでそれぞれ別かれ、3時20分に集合することに決めた。残念ながら、雨が降っていたので、途中で止まり、絵はがきやおみやげを買ったりし、お話をしながら、時間を過ごすことにした。NHKへ行くのも止めて、それからそれぞれ買い物へ出かけた。

物部 記

6月14日 木曜日 曇

今朝は6時45分センターを出る。

国立東京学芸附属学校大泉学園見学。

正善先生が私たちを案内して下さる。9時に大泉学園へ。

長谷川副校長に迎えられ、私たちの自己紹介も終り、副校長より学校経営の重点、学校の教育方針などについて説明があり、興味深いことばかりで特に「幼稚園から小学校の格差がひどいので、もう少しならかにしてやる事」「教科書からはなれた学習を」「知識的な内容よりも学習する事」と言われた長谷川副校長の言葉は私にも思い当る事があり印象深く残った。副校長は自ら校内を案内して下さる。授業参観させて頂く最初の教室は、海外帰国子女教育学級で入学して来る児童の外国における学習経験は様でなく、各自まったく異った学習経験を持っているとの事、個々の児童の学力水準や言語能力に応じて最適と思える教育情報を与えている様子に感心し、またその設備の完全さにはため息の出る思い。他の研修生の先生もしきりに羨ましがっていた。次々と案内していただいたカラーカメラを主軸としたスタジオとビデオ情報制作機を中心とした制作室や作業室、素材管理室等々、目を見張るばかり。正善先生が、「日本の学校でもここは特別ですよ」と言われたので少し安心する。私たちの学校と比較すること自体間違っていると思う。そのユートピアの様な高度な設備よりも、その教育方針に少しでも身近な理想を見いだして学んで行きたい。11:30分から12:05分まで5年生の授業参観。国語の笠原先生は「天気のことわざを考える」のテーマで、その文章を読んだ後、生徒に考えさせ、質問をして、その答えに対して生徒たちが対話をしたり、反論が出たりするのを見守って、時々、「そうかなあ」と言う程度で先生は最後まで結論を出さなかった。13時35分から

は副校長、先生方、そして私たち研修生との懇談会があり、中村校長も来られて研修生たちは質問をする。やはり笠原先生の国語の授業についての質問が一番多かった。副校長は生徒にはなるべく発言させるようにしなければと言われ、先生が一人でしゃべっていると落語になるとさえ言われた。笠原先生の指導法、生徒に対する先生の態度など、皆さんは感心していて話題は尽きなく、他の先生方にも質問をする間もなく、時間はすぎて行く。まだまだお聞きしたい事もあったような気がしながら、時間になったので15時15分、中村校長、長谷川副校長、先生方たちに玄関まで見送っていただき、大泉学園を後にする。

中原 記

6月15日 金曜日 晴

根岸の駅を8時に出発、9時25分大久保駅に全員集合。正善先生と今年7月にアルゼンチンに派遣教師としていらっしゃるといふ西川先生と一緒に国際学友会を訪ねた。出迎えて下さった森田先生は、国際学友会で発行している日本語とその練習帳の著者だといふ美しい優雅な方だった。日本語の本をいただき、学校の説明を受けてから3名ずつ分れて授業を参観しました。正善先生、宇都先生、佐藤先生と私は11教室小峯先生のクラスだった。小峯先生は背の高い表情豊かに話される方でそのクラスはマレーシア人6名をいれて15名だった。

授業は“アパートの周りに木がたくさん植えてあります”の所をしていて、まず初めにこの単元を通してテープで聞かせ、先生は次にこの単元についていろいろと方向をかえながら質問し、生徒達はとて活発に答えていました。問いかけの文章の形を答えるそのまま完全な形で大きな声でくり返し絵を使って又、くり返し、笑いもふんだんで楽しい授業だった。動詞の語尾の変化も、もう理解しているようで驚いてしまった。

2時間目は8教室で吉野先生の授業で～にします。と～になる。という言葉と前置きのかを40分ほどで終り、その後先生が3度読む文章の内容を再表現する試験があった。先生の質問もスピーディーで皆これで納得したのだろうかと思いのことを思い出した。

全く日本語を知らないマレーシア人にひらがなを2週間で教え、2カ月半でこんなにも話せるようにするなんてすごいものだと感じた。漢字についてもともと難しいものではないという意識を持たせるといふところがとてもいいと思った。多くの青年達ががんばって日本語を習得している姿は、私たちにとって一番の励みになると思う。三浦理事長の「日本と日本人を理解してこそその日本語」という言葉を胸にきざんで門を出た。

続いて正善先生におよばれて全員喜び勇んでまいりました。まず玄関で写真をとり、テーブルにあふれるごちそうに歓声をあげ、私たちは日に日に生活から離れ、生徒になっていくような感じ、カンパイのあと、すぐにごちそうに奥様と影武者様のお心づくしに胸いっぱい、お腹いっぱい、皆様ゆったりと落ちついてふるさとに帰った気分、正善先生より、“アルゼンチンだより”を1冊ずついただく

き、サイン帳にサインをして奥様のあたたかい大きなお心と、先生のいつまでも若々しいお心を感じながら先生宅をあとにしました。

今日は頭もおなかもいっぱいの本当にいい1日でした。

四方 記

6月16日 土曜日 晴

移住センターに入って2度目の土曜日、くつろいだ気持で朝を迎えた。わたしは旅の疲れをとるため休養の日としたが東京、名古屋等比較的近距离に御親類のいらっしゃる方は朝から出かけられました。

どうしたわけか名古屋に行かれた方が多く、残留組は「今日は名古屋組が多いわね……。御両親、御兄弟、お友達に会われ、尽きる事なくお話がはずんでいる事でしょう。

昼食には合計8名。大変静かな、静かな淋しいお食事風景でした。

江崎さんよりキャッシュカードを頂く、早速、銀行に行き試みられた方もいました。

残留組は部屋のおそうじ、洗濯をし、手紙を書いたりして1日を過しました。

センターの前の小さな公園からは夕方まで子供達の明るい楽しそうな声が聞こえていました。

脇田 記

6月18日 月曜日 晴

今日はいよいよ期待と不安につつまれた初授業。珍しく今朝は晴れている。そそくさと朝食をすませ駅に向かう。今日から定期券使用開始、昨日買っていない者は、今日求めていた。生れて初めて使う定期券に胸躍らせホームへ入った。相変らずのラッシュに皆で悲鳴を上げる。今日は二度目に訪れる玉川学園。先週始めて訪れた時にはまるで私達を迎えてくれるかのように、美しかった赤・ピンクのさつきも今は色あせて、ぼつぼつ早咲きのあじさいが顔を見せ始めた。もみじ、ひょうろ、梅、桜、金木犀、懐しい木々が学園中が包まれている。この豊かな自然の中で、そして最高の設備の中で学ぶ子等。思いはすぐドミニカの恵まれぬ環境で学ぶ我国の生徒等に……。

初授業表現教育。まずは1年生リトミックの授業を参観。沢山の可愛いらしい子等が先生と共に、汗にまみれて一生懸命だ。「ハハーン、これが有名なリトミックか」と感心。随分きつい動作である。我々ができるのだろうか？少し心配。

第2時限目は音楽の時間。27年ぶりに味わう生徒としての気持、初授業で皆緊張していたが、千葉先生と一諸に歌っているうちにすぐくつろいだ気分になる事ができた。愛吟集を手記研修生一同玉川学園歌を歌う時、あまりの感激にあふれる涙をおさえる事ができなかった。他の方も同じ気持だったと思う。訪日して以来何度感激の涙を流した事か、関係者の方々に深く感謝している。

午後は永井千恵子先生の幼児教育。ここでもまた暖かいお言葉を受け、肩のほららない授業をして下

さった。国や文化は異なっても人間の気質には変りがないと言うこと。人間という種に生まれ、その後成育する環境と文化によって人間形成が変わる。

身体的な面では遺伝による。知恵とか学力情緒等は環境である。環境は2つに分けられる。人的なものとの物的なもの。

授業中に睡魔におそわれることも度々だが、なんとか頑張りたいと思う。電車の乗り換えも少しづつ慣れて来た。仲間の研修生の方々の顔と名前もよく分る様になった。

さて明日も頑張ろう。

西尾 記

6月19日 火曜日 曇

前にアルゼンチンでお目にかかりました正善先生の現地授業の研究が行われました。正善先生は南米の日本語教育について、くわしい事情をご存じなのでそれぞれの国の教師の悩みをよく理解して下さいました。現地授業の問題点、授業の形態など、先生方と話しあい、一番大事なのは「日本語を学びたい気持」、その「やる気持」ではないのかしら……と話されました。

午後からは夏期スクーリングのオリエンテーション、及び、課目の選択、どの授業も重要なので私達はまよっていますが、玉川大学通信教育部の先生方からご親切に説明をいただきました。

今日は国際協力事業団の方々と研修生達で日語教師の歓迎会を開いて下さいました。急いでセンターへ帰りましたが玉川大学の授業が少しおくれましたのでおそくなりました。もうしわけございませんでした。JICAの皆様いつもご親切に下さって心から厚くお礼を申し上げます。本当にどうもありがとうございました。

高市 記

6月20日 水曜日 小雨

何日か天気が続いたが今日は朝から雨。玉川学園に着くと同時に学生時代を思い出し私も学生にもどった感じがした。

10時40分から小川先生の折紙工作の授業を受けた。私には生れて初めての折り紙で鶴を作った。最初私は他の先生方がどんどん鶴を作っていくのを見てうらやましく、ぼやとして見ていたが、小川先生が私の席に来て親切にひと折りひと折り鶴の作り方を教えて下さった。リマへ帰ってから子供達と楽しみながら折ってみたいと思っている。

午後一時より白井先生の体育。何年ぶりかで体育をやらされたが体が思うように動かない。しかし他の先生達も私も張り切って一生懸命頑張った。準備体操や鉄棒をやり、いきなりこんな体操をしてあした大丈夫かしら？

2時40分、まだ汗びっしょりのままで正善先生の現地授業研究を受けた。各国のまとめたアンケ

ートを頂き今日はパラグアイとカナダの現地の日本語学校について質問をしたり話し合った。最後には正善先生からラブレターを頂きみんな嬉しそうに受け取ったが内容を見ると次のクラスまでに短歌をつくるようにと書いてあったのがっかりした。今度から正善先生のラブレターに気を付けないといけない。

4時10分に小原学長が私達一同にお会い下さりお話しして下さいました。そして「進みつつある教師のみ教える権利あり」と言うすばらしいお言葉を頂いた。又「欲深く学べ」と言うはげましの言葉も頂いた。

“一生懸命がんばるつもりだ”

大田 記

6月21日 木曜日 曇時々雨(非常に寒かった)

1, 2時限: 小学部参観

3時限 : リトミック

4時限 : 懇談会(小学部音楽室にて)

小雨降る朝6時40分センター出発, 何人かの先生は昨日の体育の授業を余りにも懸命にしすぎたせいか「足が痛い」「身体が痛い」と悲鳴をあげていらっしゃる。

8時30分からの朝会参観を楽しみにしていたがグラウンドがぬかっている為に中止との事, 残念の声しきり。

最初に校務主任(教頭)山崎先生から玉川学園小学部の教育内容(目的)の御説明を拝聴。

- 三位一体(親, 教師, 児童)の教育を実施
- 自立心を教えるためには目は離さず手を離す
- 知育偏重(出世主義, 学歴主義)に対する反発から全人教育が生れた
- 家庭においては感化, 躰を厳しくし, 生活技能を身に付けて欲しい
- 先生は常に最高の力量(指導力)を持っていることが必要, その為には常に研究(勉強)をしなければいけない

等々, 参考になる事はかりを伺った。そのあと校内を巡ったが広い庭, 大きい池, そして動物達と環境の良さに溜息をつきながら見学, 最後に音楽室にて先生, 児童一体の楽しい授業とすばらしい歓迎会を受け全員感激。それにしてもあの広い校内に用務員がいないにもかかわらず, 小さい紙切れ一つ落ちていない事に諸先生方の御指導の良さに頭が下がる思い。

小学部をあとにして待望の(?)お昼御飯, 全員食堂に直行。

3時限のリトミックの授業では童心に返ってキャーキャーワーワーと楽しく授業を受ける。どの先生方も汗びっしょりだが, とても若々しく感じられたのは私だけかしら……?

4時限は山崎校務主任, 風間一学年主任, それに国語の岩規先生(もし書き方を間違えていました

お許し下さい)御出席のもと懇談会、平がなの導入提出方法、生活漢字、個別指導法等について、たいへん為になるお話を伺う。

どの先生方もお忙しい中を私達研修員のために時間を割いて案内説明をして下さった事に一同深く感謝いたします。

センターに迷いことなく到着、夕食はセンターの食堂が休みのために三々五々外食に行き、夜8時から女子のみにて学習談話会(毎木曜日に集まる事に決定)。各国代表の先生方も教える事について諸々の問題点があるようだ。今回の研修でそれらの問題点が解決できれば……と話し合う。

まだまだナガイ研修の日々お互いに頑張って一生懸命やりましょう!!

具志堅 記

6月22日 金曜日 曇時々雨

1時限目 児童心理学 大井講師 玉川短期大学会議室 全員出席20名

内容 発達とは何か? ~P7まで

次回P29ページ、身体と運動の発達

2時限目 日本語を考える 片山講師 文II308号室

各々国の先生に日本語学習の問題点を聞き解答される5名の先生の質問。最後に標準語と方言の異なる点並びに日本語のアクセントの問題の説明。

言語とは? はっきりとした説はない。

次回に音声学に入る、正善先生写真をとる。

3時限目 美術 山崎講師 小学部4年美術室

スケッチをやらせる前には箱の分解から入り作らせる。

物を作り出すイメージから導入興味付け、その他実物(工作)を見せて頂く。

実技 バタバタを作成 正善先生写真をとる

全員楽しく眠るひまなく終る。

小山先生(ブラジルベレン)後頭部打つ(午後1時30分ごろ)医務室に入る

筒井 記

6月23日 土曜日 雨後曇り

夜来の雨は、8時をすぎても9時を回っても一向におとろえず、結局研修始まって以来、最もはげしい本降りの中を10時半を少しまわった頃、センター出発。ホームに上がると折良く大宮行きが来て、一向車中の人となる。川崎を通過する頃には雨足も弱まり、築地の地下鉄を降りて地上に出た頃にはほとんど雨が上がっていた。

勝手に日本建築を想像していたのがおかしいほどにストンと伸び上がるように立っているビルが目

差す“つきち田村”であった。門の上にすらりと枝をのびしている一本の木に、はかな気な白い花が雨のしずくをたっとのせるようにして咲いている様子が何とも言えないので出むかえて下さった仲居さんのお一人に伺いと、“ひめしゃらでございます。”と教えて下さった。姫沙羅のことか？

みちびかれるままに二階の“広峰”という間におされる。内部は30畳の広間、竹林をえがいたびょうぶ、床の間には、ささにほたるのかけ軸がかり、すがすがとした背畳とともに夏の風情そのものである。

12時15分すぎ、御亭主自らマイクを持たれ、懐石料理のマナー及び今日の御献立について説明して下さい。

マナーの奥義は、“相手の気持ちをくむ”ことと教えられ、大きく納得。献立での説明を伺いながら、何という細やかな心配りだろうかと料理する者の心がまえをさとされる思いであった。やがて美しくもり合わせられた料理が次々と運ばれる。どれ一つをとってみても調和のとれた美である。色は五色感覚も又五感に訴えるよう工夫されていると伺って、もう唯感心するばかりであった。

御亭主のお言葉を心にため、お台所で料理して下さい下さった方々の御苦勞を感謝しつつ全部おいしくごちそうになりました。最後のおうすをいただく頃ははさかいただきすぎの感じ。この間、約1時間半、玉川学園の吉成さんによるJICAの研修委託生4名の紹介や江上団長による我々日語研修生の紹介などもあり、大変なごやかにごちそうになった。今日は大天さんの？才の誕生日とか、誕生日の歌う大合唱となる。最後に映画“懐石料理その心と作法”を見せていただき、3時解散。雨は上がっており、三、三、五、五、思い思いに帰路についた。

小山先生が昨日の事故の為日赤に行かれ出席されなかったことが大変残念だった。

鈴木 記

6月24日 日曜日 曇

本日、日曜日なれど歌舞伎鑑賞（平河町、国立劇場・大劇場）

センター出発	12時30分
劇場到着	2時過ぎ
開演時刻	2時30分
解説	岩井半四郎
假名手本忠臣蔵	2幕3場
5段目	山崎街道鉄砲渡しの場
”	2つ玉の場
6段目	与市兵衛内勘平腹切の場
出演者	中村勘九郎 他

勘平の悲劇の原因 1. 金

2. 錯覚

1人1人、魅力ある演技に心うたれたと思う。

近藤 記

6月25日 月曜日 雨(11時頃迄)後曇

第1時限 表現教育の研究リトミック 方先生

第2 # 日本古典芸能 法月先生

第3 # 幼児教育 永井先生

リトミック小野先生とは異った角度からの自己表現の仕方。先生の御指導リードの仕方が良いので皆真剣に無我の境に落入ったり、又自己表現などしていた様だ。

一時よりの古典芸能の講義約45分が解説で古典芸能とは能、狂言、人形浄瑠璃(文楽)歌舞伎を指す。(主に)狂言は能の中で演じられる。これらはいずれも一般大衆の行事やお祭りと深い関係があり言わば大衆芸能であるなどの御説明などがあり大まかではあるがその発生から現在迄の経緯が理解出来た様だ。

最後の40分能についての映画だった。その中で伝承と言われるこの古典芸能を次第に受け継がせる独特の方法なども出て来る。但しこれは大きな声では言えないが、映画が始まるとリトミックで適当に疲れ、昼食後でそれに適当な暖かさ、暗さが手伝って僕を始め、どうしてもこらえ切れずかなりの方がコックリ……やった様だ。

永井先生の幼児教育、さすがはベテラン、精神的要求に付いてのお話だったが先生御自身の御研究、御体験など身近かなものから例を取られて我々をグイグイと引張って、そして教え込んでゆかれるその力量、全く感動させられる。16時5分終了

一般に皆早く帰る。

宇都 記

6月26日 火曜日 雨かなり本降り

本日は 日誌の係と勇めども 歌詠みふかして 未だ覚めやらず

いやはやとんだ1日でした。

帰国後間もなくつゆ入りして、しとしとと降り続いた雨も今日は朝から本降りでした。9時から幼稚部参観ということで朝食もとらず、ふだんより1時間20分も早くセンターを出ました。昨夜は正善先生の宿題の短歌の仕上げで、ついつい夜ふかしをしてしまいました。

常ならぬことが重なったもので、教科書は忘れるし、睡魔はバンバ・バンバと攻め来るして、つらい1日ではありました。昼食後の「日本語を考える」では、片山先生の熱弁を一番前の席で聴いていながら、眼はあいているはずなのに頭が時々カクンと前へ落ちるのには、本当に閉口しました。

第1校時 幼稚園参観 高橋先生

学園入口に最も近く、上り坂の手前に幼稚園は在りました。幼児の運動感覚に合わせた丸壁の園舎。5つの園舎にはそれぞれ動物の名前がついています。我々が入った「うさぎ舎」の前には、本物のうさぎが飼われていました。園舎の中には小さなイス、イスの上には小さな座ぶとん。

「幼な子はすべて可愛いらしく割られているのだから、可愛いらしく装わせ、可愛いらしく育てるのが大人の使命だ」と言った人が在りましたが、園内のすべてから可愛いらしさが飛び出して来るようでした。

4、5才の園児はプール実習の時間だったので、高橋先生のお話しを園児用のイスにデッキイ尻をすえて聴きました。玉川では、3才から泳がせるのですね！園児服には必ずボタンを付けさせる、時間中には親は入園できないなど、たくましい子に育てる為の厳しさも伺い知ることができました。

知育に偏らず、集団行動・生活指導が主であること。領域に分けずに総合活動を通して全人格的に学ばせること。感謝と奉仕の精神を植え付けること……。聞けば当然の事ばかりですが、当然の事が今やふつうではなくなったのですねえ。高橋先生の眼にじんだ涙、印象に残りました。

第2校時 現地授業の研究 正善先生

カナダはオンタリオ湖のほとりトロント鈴木先生の学校の「教育理念」を参考に、各校各先生方の教育理念を語り合いました。

昼食の時も、大天先生と意見交換を続けさせて頂きました。おそらく、外のグループでも議論が続いたことでしょう。先生方、皆さん、御自分の生徒達をこよなく愛して居られ、それぞれに問題を抱え込まれ乍らも一生懸命なのです。私も、自分の持ち場で大いに頑張ります。

第3校時 日本語を考える 片山先生

睡魔との闘いの中で、速口の先生の熱弁からどうにか把み取ったエキスは……

①日本語のアクセントは、必ずしも単語1語ずつで決まるのではなく、文節単位で捉えねばならないこともある。②同じく抑揚は、拍と拍との間にある。拍の長さはすべて同じに発音されるのが特色。③清音と濁音、直音と抑音等々、日本語の発音形式を分類する用語は色々あるが、用語に惑わされて教科書的な発音指導をするな。→以上まとめて「活きた発音指導を心がけよ！」

第4校時 児童音楽 千葉先生

実習生21名と合同クラスで、オジ様、オバ様方も大変うれしそうでした。

いろいろ細かい説明をしないで、どんどん歌わせ、次々と遊ばせる千葉先生の授業の在り方に、大きなヒントを得たように思いました。長嶋さん風に言えば

「先生も、ひとつの、いわゆるエキサイティングな、ビッグ・エンターテイナーであるべきなのですね。」

「ねえ、みんなわかった？みんなも大きなヒント得た？」

佐藤 記

6月27日 水曜日 小雨後10時頃より晴

いよいよ今日は玉川の全人教育の授業だ。

その為かどうかは知らないが、各先生方も10時20分には短大会議室に入り、予め用意されたプリントに目を通して居られた。担当講師は石橋哲成先生、仲々お堅いお名前だ。玉川を代表して全人教育を講義されるだけあって小柄ではあるが仲々立派なお方だ。さて講義に入る。

第1時限

人間形成の要素には、遺伝的要因と環境的要因の結合作用によって人間形成が計られ、それが己々の努力による意図的な自己教育によってその形成が高められていく事について、詳しく例を上げて講義下さる。

第2時限

教育とは何か、教育とは愛し育てる事であり、子供側から見れば愛され育てていく事である。それは潜在性のあるものを顕在性のあるものへと、又可能性のあるものを現実性のあるものへと引き出していくものである。そして、人間は人間と言う間柄において、人間で在り、人間は人間と言う間柄において本当の人間になり得る可能性を持っている。だから人間は教育されなければならない動物であると教々の例を上げて説明下さる。そこで教育とは、どうあらねばならないか。それは、ある姿、潜在性のあるものがあるべき姿、顕在性のあるものへと思考していく場合にそこには、一つの教育論がなければならぬ。そこで小原国芳先生がいろいろ研究されて到達された教育論が全人教育論である。その全人教育論とは、詳しくはプリントに書かれてあるが真・美・善・健・富の5つがそなわったものが全人教育であるとの講義であった。

講師の先生の巧みな授業捌きにぐいぐいと各先生方も引き込まれ、午前、午後、合わせて180分の授業もまたたく間に過ぎ去ってしまいました。

第3時限目

幼児教育 永井講師

幼児期の発達的特長について、いくつかの例を上げて講師の長年のキャリアが、我々を飽きさせる事なく、常に笑いの中に講義をすすめていかれる様には感服致しました。16時18分終了

帰りは久々の晴空。帰寮するとセンター2度目のお風呂の日。今日一日御苦労様でした。

藤野 記

6月28日 木曜日 曇・晴

第1時限 美術 佐藤和男先生

まず先生の紹介から始まり、美術教育とは何だろうかを問う。

○竹とんぼ作り

飛ばなければならぬ竹とんぼを作る、1人1人違った竹とんぼが出来全員合格する。